発行所
東京都新宿区新宿 7-17-18
戸山マンション241号
社団法人 大学婦人協会
電話 03—202—0572
振替 東京 5-173434
編集兼発行人 蟻川芳子
発行日 昭和59年6月20日

JAUW

おもな記事

1面 第27回通常総会特集
2面 第38回国連総会に出席して（第3部） 支部長懇談会を開いて
3～5面 昭和58年度事業報告 昭和59年度事業計画
5～8面 昭和58年度支部報告
8面 民法講座・中国語講座で学ぶ東京支部

第27回 通常総会特集

社団法人 大学婦人協会 第27回通常総会記録

日時 昭和五九年四月一日（日）午前九時～午後三時四〇分
場所 宇都宮市江野町宇都宮ロイヤルホテルエメラルドの間
出席者 一三七名 委任状 一〇八三名 計一二二〇名
出席支部 小樽、札幌、秋田、仙台、新潟、茨城、栃木、群馬、東京、静岡、愛知、岐阜、福井、京都、奈良、大阪、神戸、岡山、広島、大分、熊本、福岡 以上二二支部
欠席支部 函館、長野、神奈川、山口、愛媛、高知、長崎 以上七支部

午前の部

司会 亘理 淑子
一 開会の辞 亘理 淑子
一 総会成立確認 亘理 淑子
会長挨拶 会長 中村 ミチ
一 黙祷 定款第五章第三二条により正会員二五七六名の五分の一（五一五名）以上の出席者数により成立
物故会員（八名）の冥福を祈って一同起立黙祷
会長 一 議長承認 定款第五章第二九条により会長山崎倫子 承認
一 書記選出 本部 富樫 絢子 松井 倫子 栃木支部 木村 弘子 河合 伸子

Ⅰ 報告

1 総務 報告書参照 松井倫子 承認
2 委員会 報告書参照 各委員長 承認
3 国庫補助事業（JAUW全国セミナー）

中村 ミチ

○国庫補助金二五〇万円を基本とする国庫補助事業として三年連続セミナーの最終回を実施した。メインテーマ「八〇年代を生きる—高齢化社会をむかえて—第三部〝生涯教育を考える〟」。サブテーマ「子供と家庭」「職業と社会参加」「平和と国際理解」「地域社会を考える」。具体的には、(1) 一一支部（東京、大阪、茨城、奈良、神戸、札幌、群馬、栃木、熊本、秋田、新潟）および本部婦人の地位委員会による調査研究。(2) 全国セミナーを上記調査研究の報告と、講演、シンポジウムおよび国際大学婦人連盟総会報告をまじえて九月一六日～一八日の三日間にわたり、東京・京王プラザホテルで開催。参加者は会員・非会員合わせて一九五名。

○企画委員会および実行委員会を設け、セミナー実施に当たりそれぞれ業務を分担した。

○全国セミナーの開催に際して参加費（一人二〇〇〇円、但し学生一〇〇〇円）を徴集し、配布資料の費用に当てるとともに、参加者の確保に努めた。 承認

4 各支部 報告書参照 各支部長 承認

5 会計

A 昭和五八年度仮収支決算報告並びに資産状況（別紙参照）

鈴木 照子

総会が四月一日であって三月三一日までの決算報告書の作成が不可能であるため、二月二九日までの仮収支決算報告書となっている。総会後五九年三月三一日までの正規の収支決算報告書を作成し、理事会の承認を経て会報に掲載することにより報告することとしたい。

検討については理事会に一任されたい。 承認

B 国庫補助事業収支報告

片山 秀子

三月三一日〆のため、後日特別会計として会報に掲載することにより報告することとしたい。

検討については理事会に一任されたい。 承認

6 監査報告 江尻美穂子

昭和五八年度仮収支決算報告（昭和五八年四月一日～昭和五九年二月二九日）の監査を三月一五日に行なったところ計算・記載共に正確であり、事業に対する使途も適切であった。

Ⅱ 審議

議長 山崎倫子

1 新役付理事・監事選任の件

議長は当法人の理事・監事の全員が任期調整のため、本日付をもって辞任したので役付理事・監事の選任につき役員選考委員会より候補者を推薦されたき旨を述べたところ、役員選考委員会委員長今井富美枝氏より選考経過報告と共に、次のとおり役付理事・監事の候補者を推薦する旨の報告がなされた。（役員選考委員会の報告については会報一三二号参照）。

会長 伊東すみ子(新)
副会長 中村 ミチ(再)
副会長 丸山 庸子(新)
書記 川田 ひろ(新)
会計 井上 章子(新)
会計 長谷 文子(新)
監事 豊倉 桂子(新)
監事 徳末 愛子(新)
監事 山崎 みね(新)

議長は右記理事・監査候補につき、その承認を議場に諮ったところ満場一致により役付理事・監事に選任することを承認可決した。

2 上記候補者の紹介 会長

3 新役員選考委員の承認 会長

選考委員今井富美枝任期満了により、石上敏子を推薦する。 承認

5 昭和五十九年度予算案 片山 秀子

会報一三三号参照（来年度総会費の増額提案を含む） 承認

6 福島支部新設の件 会長

議長は、福島支部新設のための経緯を報告したのち、支部長を関口富左氏として福島支部の新設を議場に諮ったところ、満場一致で承認可決した。

休憩（一五分）

午後の部

4 昭和五十九年度事業計画案

A 委員会 報告書参照 各委員長 承認

B 各支部 報告書参照 各支部長 承認

5 昭和五十九年度予算案 片山 秀子

会報一三三号参照（来年度総会費の増額提案を含む） 承認

6 福島支部新設の件 会長

議長は、福島支部新設のための経緯を報告したのち、支部長を関口富左氏として福島支部の新設を議場に諮ったところ、満場一致で承認可決した。

休憩（一五分）

Ⅲ 懇談

司会 中村 ミチ

1 昭和五十九年度事業計画

A 国庫補助事業 会長

「国際理解と協力」をテーマに新会長のもとでセミナー形式で行なわれる予定。四月一四日に企画委員会が開催され、五月中には事業方針が各支部に連絡される筈である。

国際理解と協力は支部でもすでに実践されていることであり、その体験談、失敗談等情報交換は有益である。JAUW会員としてどう協力し、どう理解すべきかを様々な角度から考えていく余地もある。また少額ながら本部が設けている国際奨学金の成果を調査することも考えられる。

なお、五九年度事業計画のテーマに関連して、セミナーのまとめとして決議が作られることになれば作成する。 承認

B 資生堂社会福祉財団とのタイアップについて 会長

奨学金事業に関してJAUWとのタイアップを協議中なので、この交渉の継続をお認め願いたい。 承認

C 会計より喜ばしい報告 鈴木照子

JAUWが社団法人に改組されて以来二五年を経過したが、基本金がこの度皆様の御協力により、二一五〇万円となり、ホームズ奨学金基金が一一〇万円になった。

2 IFUW国際総会報告 青木怜子

昨年夏オランダのグロニンゲンで開催されたIFUW第二一回総会について、報告書一一～一二ページに掲載の国際第一委員会の報告のうち、ことにA）一～四に補足説明を加えて報告がなされ、IFUWの現状と今後の課題が明らかにされた。

3 次期総会開催地について 会長

次期総会は科学万博を機に茨城支部での開催が決定している。

承認についての挨拶

茨城支部長 静間敏子

開催地支部長の挨拶

遠藤 ミサ

一 謝辞 筒井 和子
一 閉会の辞 中村 ミチ
以上 三時四〇分

社団法人 大学婦人協会総会

議長 山崎 倫子
署名人 丸山 庸子
署名人 加藤 恭子

ごあいさつ

会長 伊東すみ子

（埼玉県武蔵嵐山）で開かれますセミナー「国際理解と協力—その望ましいあり方をさぐる」がみのり豊かなものとなりますよう、御協力をお願い申し上げます。このテーマについては、会員の皆様はかねてから豊富な経験をお持ちのことと存じます。それらについて、心おきなく語り合おうではありませんか。会員はもとより、非会員男女のお友達をもお誘い合わせの上、ぜひ一人でも多く御参加下さいますよう、お願い申し上げます。

遅く来た今年の春は、急ぎ足で通りすぎて行きました。この号が皆様の手許に着くころは、みどりあざやかな初夏になっていることでしょう。さて、去る四月一日宇都宮市において開催された第二七回通常総会は、二二支部から一三七名の御参加があり、盛会でした。とくに、支部長懇談会では、率直な経験と意見の交換が行われ、大変有意義であったとうかがいました。万端にわたり、お世話下さいました宇都宮支部の皆様に、厚く御礼申し上げます。この総会での御承認により、私が今期会長の役を勤めさせて頂くこととなりました。大役でございますが、いっしょうけんめいやらせて頂くつもりです。

引継ぎにあたり、あらためて山崎前会長を始めとする前執行部の四年間にわたる功績を感じております。まず、三回にわたるセミナー「八〇年代を生きる—高齢化社会をむかえて」シリーズを企画、実行されました。この間、参加された各支部の御負担は大きかったと思われますが、その過程を通じて本部と支部の連絡が密になり、会員同志の間にも支部の枠をこえて、終始牽引車的役割を果され、そのうえ後半二年間は国連第三委員会の政府代表代理として、民間外交の実を挙げられました。

以上のこと、とくに支部活動が活性化してきたという事実は、前会長の採られた基本的方針が大学婦人協会の発展という観点からみて正しかったことを物語っていると思われます。前会長に対して、また前会長に協力して来られた本部理事と各支部の皆様に対して、あらためて心からの謝意を表したいと思います。

新理事会は、四月二八日から、新企画委員会は同月一四日から、それぞれ活動を開始しました。今後全国会員の皆様の御期待に沿えるよう努力してまいりますが、何分不慣れな面がございますので、お気付きの点はどしどしおっしゃって下さいますよう、また大学婦人協会のあり方についても御意見をお聞かせ下さいますよう、お願い申し上げます。私どもも、生涯学習の要領である「共に学ぶ」気持ちで、ご一緒にやってゆきたいと思っております。さしあたっては、本年一〇月神戸および国立婦人教育会館

一九八四年度の事業計画について

丸山 庸子

新聞に国際化の文字を見ぬ日はなく、通信衛星の打上げを情報産業の発達により総ての国が国際化を余儀なくされている今日、国際的な相互理解と協力とは我我の重要課題のひとつとなっている。大学婦人協会では既に本部・支部の諸事業を通じて国際的な活動を続けてきている。これらの交流体験からの諸問題の指摘とともに、我国の国際的立場、国際交流諸事業の実態調査、認識からなお一層努力すべき諸点について語りあいたいと思う。

主テーマは「国際理解と協力——その望ましいあり方を探る——」であり、サブテーマは以下のように提案されている。

1 国際理解とは
国際関係の実態認識

於 宇都宮ロイヤルホテル

第三十八回 国連総会に出席して（第三部）

前会長　山崎　倫子

まとめ

平和問題・難民問題・環境問題・食糧問題

国際理解の難しさはどこにあるか

民族間の相互理解の場合

2 国際交流の経験を語る

各支部に於ける国際交流の経験

国際奨学生のその後（追跡調査を含む）*

AAUW奨学金を投与された方々の場合

国際協力事業団の事業内容と遭遇している問題点*

個人的な交流体験・ホームステイ

青少年と国際交流

国際結婚

3 国際理解と教育

留学生問題

帰国子女の問題

英語教育の問題

科学研究と国際交流

大学教育と国際化

国際人の育成

麻薬関係

モルヒネ、ヘロイン、阿片、コカイン、覚醒剤等の乱用が増加していること、昨年度摘発没収量が現在迄の最大量であったこと、麻薬問題は社会、人道問題であると共に政治、経済問題であり、また優先外交問題でもある、多くの犯罪組織によって充分計画された麻薬密売組織による取引が圧倒的に多いことなど麻薬担当官より報告がありました。

薬品の生産制限計画、監視と摘発、教育及び広報活動、リハビリテーション、NGOの協力、麻薬乱用防止基金への援助等が討議されました。

人権関係

科学技術はあく迄世界人類の利益に資するためにあることが強調されましたがそのアプローチは東西著しく相反して関連演説は非常に政治的でした。

児童の権利についての国際条約にも言及されました。宗教不寛容に関して東側諸国に於ける宗教的迫害、イランに於けるバハイ教徒迫害について西側から激しい非難演説が行われました。

拷問、残虐、非人道的処遇又は処罰関連で、オランダ、スエーデン、オーストリア等が拷問禁止条約の早期締結と拷問被害者発見への自発的基金への拠出を各国に呼びかけました。人権委員長は、生きる権利、自由、安全の保障が犯され、非合法逮捕、拷問、殺人などが世界の諸々で行われていることを指摘しました。

国連でも世界人権宣言三十五周年の記念集会が総会議場で行われました。

また国連システム内における人権活動として西側は全ての人権及び基本的自由が不可分であること、且つ著しい人権侵害のあった場合の方策として人権高等弁務官の設置の必要を指摘したのに対し、東側は、平和が全ての人権保障の前提で、アパルトヘイト、人種差別、植民地主義、民族自決権の否定、天然資源への権利の否定などが人権侵害の原因であるとし、開発の権利が人権の保護促進に不可決としました。人権関係では、児童の権利に関する条約、宗教不寛容、科学技術と人権で三つ、拷問、残虐非人道処罰で二つ、国連システム間人権活動で三つ計十三の決議が採択されました。

最後に経済社会理事会報告として上ってきた議題は十八で、(1)移住労働者の人権、(2)非市民の権利、(3)ソマリアの難民、(4)ジプチの難民への人道的援助、(5)スーダンの難民状況、(6)エチオピアの行方不明者、(7)拷問被害者のための基金、(8)麻薬の非合法生産、不法乱用及び取引に対する国際闘争と連絡方法の改善、(9)ガテマラの人権と基本的自由、(10)強制行方不明者、(11)南アの学生難民、(12)即決処刑、(13)人権保護のための地域取極、(14)ナチ、ファシスト、ネオファシスト活動及び人種不寛容、憎悪及び恐怖に基づくあらゆる形態の全体主義的思想及び慣行に対する手段、(15)大量難民流出、(16)エルサルバドルの人権と基本的自由、(17)チリの人権と基本的自由、(18)麻薬管理政策と戦略。の以上で、うち(9)(16)(17)が投票で他は無投票で採択されました。

他に、新国際人道秩序については、世界の諸問題解決に対し道徳的及び法的、双方のメカニズムが追求されなければならないこと、単なる国際条約への加盟だけでは充分でないこと、各国が新国際人道秩序についての見解をだすべきの決議が採択されました。

以上の報告をふまえ、第三十八回総会の特徴をあげますと、

(1)第二次人種差別撤廃闘争の十年が宣言されたこと

(2)一九八五年ケニアで開かれる国連婦人の十年世界会議は政治色の濃いものになる傾向が強いと思われることです。

アメリカと東側との間の社会体制の基本的な相異点に立脚する激しい緊急動議、答弁権の応酬があり、民族自決権との絡みでのグレナダ問題に言及するなど、政治的、プロパガンダ的、感情的論争が多かったこと、緊迫した世界状勢にあると言われながらも、全体的には低調であったように思いました。

日本は人種主義、民族自決権、人権、難民、高齢者、青年、婦人及び麻薬関連で七回の演説を行いました。社会問題では特にNGOの活動が積極的であることを発言に盛り込みました。

KAL撃墜事件に始まり、ラングーンでの韓国要人暗殺、アキノ氏暗殺、グレナダ侵攻、ペイルートの米、仏国際監視軍への爆弾テロ等不穏な事件が続き、国連総会、特に安保理、軍縮、政治関係委員会は多忙を極めましたし第三委員会でもグレナダ事件は恰好の攻撃目標でした。

国連総会とは何か!! 果して国際平和と安全の確保、経済的社会的発展の促進、人権擁護と世界人類の平和と繁栄を守る、という国連設立の目的に向って役立っているのだろうか。二ケ月余の国連出席中幾度むなしいと感じたことか!!

ふり返って今、もし国連がなかったらと考える時、国連が平和と正義を志向する国際世論を作る大きな原動力になっていること、加盟国人口の七十%を占める途上国への莫大な援助と協力が行われていること、さらに婦人の差別撤廃、人権など地球的問題への貢献、速効的効果は見られなくとも、やはり国連の存在意義は大であると結論したいと思います。

人権と基本的自由を享受する私達日本人は平和と豊かさに甘え、きびしい世界情勢を黙視しているのではないでしょうか、国際社会の一員としての自覚を持ちたいものと願っています。

(完)

支部長懇談会を開いて

栃木支部長　遠藤　ミサ

今回初めての試みとして総会に先立ち三月三十一日午前、十時三十分より正午まで支部長懇談会を催し、支部がかかえる共通の問題について話し合った。出席者、理事、山崎倫子、中村ミチ、井上繁子、富樫絢子、片山秀子、成田廸子、時枝裕子、衛藤綾子、西村章子　九名

出席支部　小樽、札幌、新潟、茨城、栃木、東京、静岡、愛知、岐阜、京都、岡山、広島、福岡、大分、熊本　十五支部

会議

一、滞納会費はなかなか徴収出来ない。退会とか、休会の話しはあったが結論は出ず、しかしすぐ退会にはしない方がよい。支部会費千円では運営出来ないので、バザー、ダンスパーティ、文化講座、品物の販売等の利益によって何とか運営している支部が多かった。

二、会員の増減及び増加運動

三、支部会員とその役割分担

四、本部と支部の連携

五、其の他

(一)増員の方法は、会の目的を明確にし、会員のメリッ

（次頁十段目につづく）

昭和58年度国庫補助事業

「80年代を生きる」III 特別会計収支報告　（単位：円）

特別会計　片山秀子、鈴木照子、長谷文子

収入の部				支出の部				
区分	予算額	決算額	備考		科目	予算額	決算額	内容
国庫補助金	2,500,000	2,500,000		補助対象経費	謝金	450,000	425,000	基調講演講師他3名 支部（講師、パネラー）14名
セミナー参加費	600,000	387,000	@2,000円×192名（会員−150名） @1,000円×3名（学生）		旅費	1,045,000	1,024,900	講師、担当理事、リポーター、分科会リーダー、支部長等
協会支出金	2,353,040	2,648,484	支部振興費 200,000円を含む		借損料	685,000	640,760	セミナー会場、分科会会場 支部（講演会、セミナー、委員会等）
懇親会費	1,000,000	920,000	@10,000円×92名		消耗品費	42,400	48,669	テープ、文具等 支部（テープその他）
銀行利息他	7,000	19,029			印刷製本費	2,135,000	2,097,200	報告書 2,300部 セミナー要項等、 支部（アンケート、リポート等）
◎特別会計収支報告について： 本部会計国庫補助事業経費は 4,948,484円（内訳ー補助金 2,500,000円、協会支出金 2,448,484円）に加えて支部振興費の一部 200,000円を流用しています。上記「収入の部」では補助金と協会支出金に分け、その中に支部振興費の一部も加算してあります。尚参加費、懇親会費、銀行利息等は直接特別会計で扱ったもので本部会計には含まれません。ご協力下さった委員会、支部に改めて感謝いたします。					通信運搬費	513,640	613,674	要項・報告書、委員連絡、 支部（アンケート、委員連絡等）
					会議費	490,000	440,430	交流会、コーヒーブレイク、 企画委員会、編集委員会等
					賃金	49,000	49,000	編集、発送アルバイター
					雑役務費	50,000	57,600	コピー料金、振込手数料 支部（コピー料金）
					小計	5,460,040	5,397,233	
				その他	懇親会経費その他	1,000,000	1,077,280	懇親会経費その他
計	6,460,040	6,474,513			計	6,460,040	6,474,513	

○上記の収支決算報告について異議のある方は7月末日までに会長までお申し出下さい。

監査報告　監査の結果、収入・支出とも間違いなく記帳され、正確であることを証します。

昭和59年5月4日

監事　青木満里子

〃　江尻美穂子

1984年度 大学婦人協会国内奨学生募集要項

I 応募資格

(イ) 一般奨学生　文部省の認可する大学（短期大学を除く）の学部第三学年に在籍する女子学生、あるいは大学院に一年以上在籍する女子学生で、人物・学業ともに優れた者。

(ロ) 研究学徒　一年以上本協会の会員であって、研究能力に優れ、業績のある研究者。ただし年令40歳未満、あるいは大学講師以下であること。

(ハ) 社会福祉奨学生　文部省の認可する大学（(イ)に同じ）の学部・大学院に在籍する女子学生で、身体に障害がありかつ人物・学業ともに優れた者。または本協会の会員で、身体に障害のある研究者。

II 奨学金支給額及び募集人員

(イ) 一般奨学生	学部学生	1人	5万円	5名
	大学院学生	1人	7万円	5名
(ロ) 研究学徒		1人	10万円	3名
(ハ) 社会福祉奨学生		1人	5万円以上	若干名

III 応募手続

応募希望者が東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県内の大学から応募する場合は、所定の出願書類を所属大学の学長から直接本協会本部へ、またその他の大学から応募する場合は、当該地方支部長宛に提出すること。

IV 提出書類

(1) 大学婦人協会所定の奨学金交付調書（一般奨学生、研究学徒、社会福祉奨学生別）

(2) 一般奨学生および社会福祉奨学生は、在学する大学の交付する学業成績証明書

(3) 履歴書（写真貼付、自筆のこと）

(4) 健康診断書（社会福祉奨学生は所定の身体障害状況調べを添えること）

(5) 小論文（下記のそれぞれの課題を1,200字〈B5版400字詰横書原稿用紙3枚〉以内にまとめること）

一般奨学生：学部学生　自分の専攻分野と将来の希望について

大学院生　修士論文または博士論文の計画と将来の希望について

研究学徒：自分の専門分野の研究計画と将来の展望について

社会福祉奨学生：自分の専攻分野と将来の希望または専門分野の研究計画と将来の展望について

(6) 大学婦人協会所定の推薦状（推薦者は学生の場合、在学する大学の学長・学部長・主任教授のいずれかであること。研究者の場合は、その研究指導者）

V 選考方法

支部長宛に提出された書類は支部会で選考して、2名以上の場合は順位をつけて本部に提出する。

本部においては、提出されたすべての書類を選考委員会で選考し、その結果を理事会にはかって決定する。奨学生の氏名は、推薦支部長、本人の在学する大学学長、および本人に通知する。

VI 出願締切日　1984年10月6日(土)までに本部に書類を提出すること。（当日消印有効）

VII その他

(1) 授賞式　1985年1月頃（日時は後日通知する）

(2) 奨学金を受けた研究学徒は1年以内に研究結果の報告書を本部に提出すること。

(3) 詳細については本部に照会のこと。

社団法人　大学婦人協会
会長　伊東すみ子
国内奨学委員長　成田廸子
社会福祉委員長　新谷弘子
〒160 東京都新宿区新宿7-17-18
戸山マンション 241号
電話 03-202-0572

社団法人 大学婦人協会

昭和五八年度 事業報告
昭和五九年度 事業計画

書記 富樫絢子 松井倫子

総務報告

I 組織

会員

正会員 二、五七六名

(59年2月29日現在)

(内本年度新会員) 一六一名

賛助会員 一六名

理事 一八名

監事 二名

役員選考委員 七名

評議員 二九名

地方支部 二九支部

II 事業

1 昭和五八年四月一日、第二六回通常総会を福岡市西鉄グランドホテル翠玉の間において開催した。

2 定例理事会を一〇回開催し、それ等の議事内容は議事録を通じて支部長および評議員に、また決議事項は会報(JAUW)により、会員に報告した。

3 昭和五八年六月二三日午前九時三〇分より、行政改革に関連して大蔵省による、国庫補助事業の実態調査が実施された。

4 昭和五九年度文部省国庫補助事業計画案は、テーマを「国際理解と協力」と設定し、予算額二五〇万円を七月二〇日文部省に提出した。

5 IFUW第二一回総会が八月三日~十一日オランダのグロニンゲンにおいて開催され、JAUWから約七〇名参加した。

6 IFUW同上総会において、IFUW委員会委員長として、JAUWより高野フミ氏がフェローシップ委員会委員長に、また中村道子氏がメンバーシップ委員会委員にそれぞれ選出された。

7 IFUW同総会前後に開催された第六七・六八回評議会にJAUW代表として青木怜子理事が出席した。

8 九月一六日、東京・京王プラザホテルにおいてIFUW第二一回総会の報告会を、翌一七日高野フミ前IFUW会長への感謝の会を開催した。

9 企画委員会は昭和五八年度文部省国庫補助事業として以下のとおり企画立案し、同事業実行委員会の協力により全国セミナーを実施した。

(1) メーン・テーマ

「八〇年代を生きる—高齢化社会をむかえて—第三部

〃生涯教育を考える〃」

(2) 実施方法

① 支部および本部婦人の地位委員会による調査研究

② 全国セミナー(九月一六日~一八日 東京・京王プラザホテルにて開催)

(3) 最終報告書作成

昭和五九年三月完成

配布

全国セミナーは、多角的に問題を浮き彫りにして、三年間連続セミナーのしめくくりにふさわしい成果を収めることができた。会員・非会員合わせて一九五名の参加を得て盛会であった。

10 第三八回国連総会(五八年九月~一二月 於ニューヨーク)に、国連NGO国内婦人委員会の推薦により山崎倫子会長が昨年にひき続き日本政府代表代理に任命され、出席した。

11 (1) 昭和五八年度(一九八三年度)のIFUW加盟諸国の大学婦人協会会員を対象としたJAUW国際フェローシップは、選考の結果インドの Dr. Padmini Kedar をフェローとして招聘した。

(2) IFUWフェローシップに一名推薦した。

(3) AAUWフェローシップに四名推薦した。

12 十一月一〇日役員選考委員会を開催し、次期(昭和五九・六〇年度)役付理事および監事の候補者を決定した。

13 十一月一八日文部省主催の昭和五八年度婦人団体代表懇談会に亘理淑子副会長が出席した。

14 十一月二六日胡耀邦総書記歓迎青年の集いに本協会からも出席した。

15 昭和五八年度国内奨学生および社会福祉奨学生に対する奨学金贈呈式を次のように行った。

昭和五九年一月一四日(土) 午後一時三〇分~

於 国立教育会館

国内奨学生

学部学生 五名

大学院生 七名

研究学徒 二名

ホームズ奨学生 一名

社会福祉奨学生 三名

16 国連NGO国内婦人委員会主催、第三八回国連総会報告会(五九年一月二一日 於婦選会館)において、山崎倫子会長は政府代表代理として報告を行った。

17 国連大学評議員エリーズ・ボールディング氏(米国)の要望に応えて、JAUW会長他数名は同氏とグループ会見(五九年二月二一日)を行った。

18 昭和五八年度支部振興費二〇万円は国庫補助事業に繰り入れ、支出した。

19 昭和五九年一月中旬財務委員会にて、昭和五九年度予算案を作成した。

20 IFUWフェローシップ・ファンドに二〇万円送った。

21 IFUW Archives Project(IFUW記録保存に関するプロジェクト)のアンケートに対する回答を三月一日までに本部宛送付した。

22 IFUWリリーフ・ショップに二四万円相当の品物を総会開催時に持参した。

23 IFUWを通じてアムネスティ・インターナショナルより呼びかけのあった「良心的理由で不当に拘留されている人びとの即時釈放を求める署名」(国連事務総長および各国首脳宛に提出)は、JAUW全国支部から寄せられた三〇五名の署名を青木怜子理事が総会開催時にIFUW事務局へ持参した。

24 国連婦人の一〇年世界会議の準備のためのESCAP地域政府間会議日本開催(昭和五九年三月二六日~三〇日)にあたり、準備委員として、JAUWが、凡太平洋東南アジア婦人協会、有職婦人クラブとともに選出され協力した。

25 同上ESCAP地域政府間会議に、IFUWのアジア地域を代表するオブザーバーとして青木怜子理事が出席した。

III その他

1 全国セミナー、奨学金関係、見学旅行、講演会、バザー開催、IFUW総会、およびIFUW関係の交流等については、各担当委員長の詳細報告参照のこと。

2 本年度物故会員に対し謹んで哀悼の意を表しご冥福をお祈りする。

肥田美知子(大阪府女専)	大阪支部	五七・一〇
伊吹 知勢(東女・筑)	東京支部	五八・四
真島 ヒサ(茶)	新潟支部	五八・八
龍岡 フサ(日女)	新潟支部	五八・八
細野 敦子(奈女)	東京支部	五八・一一
今中 忠子(大薬)	奈良支部	五九・一
高橋 喜美(実践)	秋田支部	五九・二
野中さかえ(日女)	群馬支部	五九・三

以上八名敬称略

(但し、前年度報告書作成以後、本部に通知のあった方)。

委員会報告

財務委員会

片山 秀子

I 事業報告(五八年度)

1 賛助会員(一口 五、〇〇〇円)

河野 恭子氏	三口
徳末 愛子氏	一口
大脇 静枝氏	一口
平田 貫一氏	二口
清水 ふく氏	二口
田 スミ江氏	一口
鈴木 鑑氏	六口
市川さく枝氏	二口
西村 敬三氏	四口
後藤 勲氏	二口
野見山不二氏	一口
菅原 静子氏	一口
馬場 八巻氏	一口
賀来弥寿子氏	一二口
村井 孝子氏	一口
山田 礼子氏	〇・五口
以上一六名	四〇・五口

2 委員会活動

●三越劇場小観劇会を継続実施

●五月二四日 東京支部共催筑波研究学園都市視察バスツアーを行う。参加六二名西村会員部委員長の熱心なご協力により筑波大油田先生の講演も含め実りある一日を過した。

●IFUW総会開催に先立ち、七月同時開催のリリーフショップのために寄贈品をお願いした所理事会および東京、大阪、京都、奈良、岡山、札幌の各支部、総会参加の諸姉、財務委員会より二四万円相当の品物が集まり、委員会で現地値をつけ大きなダンボール箱二ケ送った。

●八月IFUW総会参加ツアーに協力

●化粧品、ワイン、紙ナプキン、包紙、スープの素、ストッキング、布製バッグ、等の他会長寄贈のワイン等事務所におき、会員の需要に応える。

●九月、セミナー開催に合わせミニバザーを実施、理事会、委員会、東京支部の方々より多数の寄贈品をいただき、又上記の品物等を加えて予期以上の成果を挙げることが出来た。又、六月頃よりツルミ象牙店の協力を得、バザーの時期までアクセサリー等を扱い皆様にも喜んでいただき成果も挙って感謝している。

●一月中旬 委員会において昭和五九年度予算案を作成

●委員会 六回

3 寄付状況

総計 三、七八九、八七〇円

a 指定寄付

小島乳業製菓(株) 四〇〇、〇〇〇円

社会福祉奨学金の一部として 二〇〇、〇〇〇円

山崎 倫子氏 基金増額のため 一〇〇、〇〇〇円

b 会員寄付 二六二、四〇〇円

東京支部 二三、〇〇〇円

大分支部 三〇、〇〇〇円

石井靖子氏 二〇〇、〇〇〇円

その他会員随時 九、四〇〇円

c 一般寄付 二〇〇、〇〇〇円

丸紅商事 一〇〇、〇〇〇円

三菱商事 一〇〇、〇〇〇円

d 活動その他による寄付 二、六二七、四七〇円

●小観劇会

●化粧品、エプロン、スープの素、ワイン等取り扱い

●会長寄贈ワイン等多数

●前進座、三越劇場招待券寄贈

●バスツアー実施

●ミニバザー会員寄贈品 その他

●日本交通公社よりIFUW総会ツアー実施につき旅行事務費

●桜楓会より保険業務事務費

●象牙アクセサリー等取り扱い

II 事業計画(五九年度)

●予算消化のため随時よい企画があれば採り上げる

●具体案未定

●昭和六〇年度予算案作成

III 委員(五八年度)

馬場 八巻 渡辺登志子

南 美枝子 枝 キク子

永峰 すみ 石上 敏子

鈴木 照子 富樫 絢子

長谷 文子 鈴木 行子

佐藤千鶴子 若井 綾子

片山 秀子

小観劇会メンバー(常時)

杉野 美恵 南 美枝子

枝 キク子 馬場 八巻

渡辺登志子 古川 綾子

三浦 満知 横井 香代

鈴木 紀子 今井富美枝

野崎 方子 鈴木 照子

片山 秀子

東京支部水曜観劇会メンバー(常時)

山崎みね子 長谷 文子

鈴木 行子 若井 綾子

栗林 総子 太刀川洋子

相田志都江 豊倉 桂子

加藤 恭子

企画委員会

中村 ミチ

I 事業報告(五八年度)

1 昭和五八年度文部省補助事業の企画、立案、実行に当たり、実行委員会とともに、予定通り実施した。

テーマ「八〇年代を生きる—高齢化社会をむかえて—第三部〃生涯教育を考える〃」

サブテーマ

「子供と家族」

「職業と社会参加」

「平和と国際理解」

「地域社会を考える」

早目に準備に取りかかるため下記のように昭和五七年度内に委員会を開いた。

第一回 昭和五八年一月一八日(火) 6:00~9:30PM

●セミナーの期日を決める

●会場の候補について検討する

●セミナー・プログラムについて話し合う

●テーマについて意見交換を行う

●各支部参加方法について考える

第二回 昭和五八年二月五日(土) 3:30~5:30PM

●会場を京王プラザホテルに決まる

●テーマについて検討し、決定する

●「決議案」について考える

第三回 昭和五八年五月七日(土) 4:30~8:30PM

●講演者として緒方貞子氏に決まる

●シンポジウムの講師について考える

●分科会テーマを決める

●企画委員の役割分担を考える

第四回 昭和五八年六月四日(土) 4:30~8:15PM

●各支部の調査報告について考える

●シンポジウム講師決定

江上信雄氏 田能村祐麒氏 服部洋子氏

●プログラムが決まる

●ちらし作成、プログラム、受領証印刷について

第五回 昭和五八年七月二日(土) 4:00~6:30PM

●講師演題、シンポジウム進行方法について考える

●セミナー報告書作成について

●調査研究のため支部への補助金配分について

●ちらしの発送について

第六回 昭和五八年九月三日(土) 4:00~6:00PM

●セミナー当日の役割分担を決める

●プログラム進行等について

II 事業計画(五九年度)

調査研究:「国際理解と協力」

国連婦人の一〇年の最終年を迎えるに当り、国際的な理解と協力の問題をいろいろな角度から検討する。一泊二日のシンポジウムをおこなう。

III 委員(五八年度)

山崎 倫子 亘理 淑子

伊東すみ子 富樫 絢子

松井 倫子 片山 秀子

鈴木 照子 藤田 寛子

蟻川 芳子 井上 繁子

時枝 裕子 西村 章子

成田 廸子 衛藤 綾子

山崎 みね 青木満理子

新谷 弘子 江尻美穂子

山本 和代 丸山 庸子

白井 典子 岩城 典子

中村 ミチ

財務委員 東京支部会員

国内奨学委員会

成田 廸子

I 事業報告(五八年度)

1 四月一五日 委員会を開き前年までの大学婦人協会国内奨学生募集要項を再検討し、改正案を作成する。

2 五月七日 理事会で上記の改正案承認される。

3 五月二三日 募集要項印刷了。会報一三〇号に掲載方依頼する。

4 六月四日 推薦依頼状に所定用紙を付して地方支部長と東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県内の旧承認大学四六校の学長宛に発送。またホームズ奨学生の推薦方を本年度順番校である同志社女子大学の学長に依頼する。

5 一〇月一日 応募書類受付最終日。応募者数は次の通りである。

研究学徒 三名

大学院生 一三名

学部学生 一六名

ホームズ奨学生 三名

6 一〇月二二日 本部事務所において選考委員会開催。厳正な審査の結果合格予定者リストを作成、理事会に提出する運びとなる。(選考経過について会報一三二号参照)

7 一一月五日 理事会に選考結果を報告、承認される。(受賞者名簿は会報一三二号に掲載)

研究学徒(一〇万円) 二名

大学院生(七万円) 七名

学部学生(五万円) 五名

ホームズ奨学生(六万円) 一名

8 一一月一八日 合格・不合格通知を本人及び関係筋に発送。但し贈呈式当日の講師名及び演題は、後日決定後に追って通知する旨を、合格者及び関係者宛て付記する。

9 一二月一二日 講師名と演題決定し、奨学生・所属大学(及び地方支部長)宛て通知する。

10 昭和五九年一月一四日 第三五回奨学金贈呈式。

(前頁より)

トをもっとアピールする。

(三)時間的な問題がある為か支部長が一人で仕事をやってしまう傾向があるが、それぞれの役割があるのだから、各々責任をもって、できるだけ分担した方がよい。

(四)本部の事業企画の中に入っていかないと、支部は本部から浮き上ってしまうようになるが本部と直接連っている意識をもちたい。事業以外で本部との繋りはないか。講演会とかサークル活動等に勧誘してほしい。

<会長>本部と支部の活動の差については、本部はあくまでも支部あってのものである。国庫補助事業の企画調整を行っている。IFUWとの関係があるので、国際的な流れを伝える事が出来る。本来の目的の学歴向上の点は達成された。次に地位向上に向って進みたい。それにはみんなが進んで社会に出て、重要な活動をしていくことを期待する。支部活動は会員相互の親睦向上を計りながら、上手にマスメディアを利用し、その主導権をもち、又他団体との交流の中で、ますます発展してほしい。会費の件は支部—本部—IFUWと繋がっているので簡単に去就を決めない方がよい。又短大卒の入会はIFUWとの関係で無理である。賛助会員として考えてみてもよい。他団体との関係は、文部省からは二七婦人団体の中で最も重きをおかれているので、補助金は必ずくれる。国際的にはNGO十団体の中に入り、Consultative Status の一つである。奨学金はささやかな金額だが勉学心の向上の為で、福祉奨学生にも送りたい。以上の様に種々の活動をしていることを各会員は自覚してほしい。今後の発展を期待している。

<司会>栃木支部より今後の総会費用の検討の一案として、参加費の徴収、本部よりの補助金の増額などの提案があり、今後の課題とした。栃木支部始めての試みで不安であったが、各自の意見を出し合うことができ、目的の一端を果せた。皆様の御協力に感謝し、次の機会を期待している。

（会報一三二号参照）

11 一月一八日 贈呈式当日受領できなかった学生二名には、所属支部長を通して贈呈する旨通知し、支部長には依頼状を添えて奨学金と賞状を発送する。

Ⅱ 事業計画（五九年度）

国外奨学委員会

衛藤綾子

Ⅰ 事業報告（五八年度）

1 JAUW国際フェローシップ関係

本年度も継続事業として（一九七五年以降）、国際フェローシップを設け、国外より婦人研究者を招聘することにした。奨学資金の限度額は、昨年同様七〇万円、募集人員は一名、募集経過は下記の通りである。

(1) 募集要項は内容を検討し、一部改正した。

(2) 四月初旬、一九八三年度JAUW国際フェローシップの公告を行ない、同書類をIFUW加盟諸国の大学婦人協会宛に発送した。応募書類の受付締切は六月一〇日。

(3) 六月一六日に選考委員会を開いた。今年度の応募者数八名。内訳はインド三名、オーストラリア、パキスタン、ニュージーランド、ベルギー、英国から各一名。この中から一名のFellow、一名のAlternateを選び、七月二日の理事会において合意を得た。Dr.（Mrs.）Padmini V. Kedar（インドのPune生まれ、三六才、生化学を専攻、現在Nagpurで臨床検査研究所を経営、今回はDNA合成酵素の研修を愛知県がんセンター研究所において行なう。）

(4) 七月初旬、全員に合否の結果を通知した。

(5) 八月末、Dr. P. V. Kedarよりサイン済みのContractを受領し、一〇月一日より研修を始めることになった。

(6) 九月二九日、Dr. P. V. Kedar来日、東京に一泊し、翌三〇日、委員会で歓迎の朝食会（於東京ガーデンパレス）をし、夕方名古屋まで送った。一〇月より同研究所、生化学部高橋泰常部長および松影昭夫室長の下で三ヵ月の研修を開始した。なお到着時、また研修期間中、三輪ふさ子名古屋支部長および同支部会員諸姉のお世話を頂く。

(7) 一一月二三日、東京支部と共催でDr. Kedar. を囲む会を持った。（於日本YWCA）

(8) 授与した奨学金は七〇万円。研修は一二月末に終了し、翌一月五日に帰国した。（会報一三二号に掲載）

2 AAUW・IFUWフェローシップ関係

(1) 八月、AAUWおよびIFUWのフェローシップの公告を各支部を通じて会員に知らせた。

（締切はそれぞれ一二月一日、また国内選考の締切は一〇月三一日。）

(2) 一一月一日、応募者AAUWへの一名とIFUWへの二名について夫々選考委員会を開き、AAUWには四名、IFUWには一名を推薦し一一月五日の理事会で承認された。なお、IFUWの候補者の英語実力判定をメリー・アルトハウス氏にお願いした。

(3) 一一月八日全員に結果を通知した。尚後日、一名は就職決定の為辞退を申し出た。

(4) その他、次の各国大学婦人協会から奨学生募集の書類が送られてきた。イギリス、トルコ、オーストラリア、イタリア等。

＊なお、選考委員は、下記Ⅲの国外奨学委員の外に、会長、副会長、東京支部長を含む。

Ⅱ 事業計画（五九年度）

1 前年度に引続き、IFUW加盟諸国の大学婦人協会会員を対象にフェローシップを設けて、国外から研究者を招聘する予定である。資金は七〇万円を限度とし、招へいする研究者は一名としたい。

2 AAUWその他の国外からのフェローシップに対し、候補者の推薦を行なう。

Ⅲ 委 員（五八年度）

足立 已幸　衛藤 綾子
大竹 泰子　萩原 芳子
長谷川恭子　峰本 暐子

国際第一委員会

青木怜子

Ⅰ 事業報告（五八年度）

(A) IFUW関係

1 第二一回総会（八月三日～一一日）、第六七・六八回評議会（八月二日、一二日）がオランダ・グロニンゲンで開催された。日本からの参加人員は約七〇名。内、二九名が会議日程を消化した。

また、〈ディスカッション・リーダー〉には中村道子、中川洋子、岡村和子、〈ヴォーティング・デリゲート〉には山崎倫子、松山宣子、中村ミチ、中村道子、中川洋子、岡村和子、梅田貞子、青木怜子、〈オルターネイト〉には青木満理子、萩原芳子、生島藤根子、今井冨美枝、片山秀子、久保貞子、村井孝子、山本道子、〈パロット・テラーズ〉には藤崎久子、川田ひろの各氏がそれぞれの任に当った。

総会ならびに評議会での決定事項は以下の通り。

(1) 新役員―〈会長〉Helen Dunsmore（イギリス）、〈第一副会長〉Litva Riisa Karvetti（フィンランド）、〈第二副会長〉Mary Purcell（アメリカ）、〈第三副会長〉Chitra Ghosh（インド）、〈第四副会長〉、Irene Clark（カナダ）、他。

(2) 委員会役員（JAUW関係）―〈フェローシップ委員会委員長〉高野フミ、〈メンバーシップ委員会委員〉中村道子。

(3) 加盟国の変更―ギリシャが脱会し、フィージーが参加したことで、加盟国数は五一ヵ国と変わらない。

(4) スタディ・エンド・アクション・プログラム（一九八三～八六）―『婦人の十年』その後―二〇〇〇年に向けての準備」

(a) 女性とテクノロジー

(b) 女性の働き

(5) 規約の一部改正―個人会員（Individual Member）の規程を設け、大学婦人協会の組織のない国での会員の拡充を計っていく。

(6) 会費は現行据置きとする。

(7) 行動計画に関する決議事項の大綱

(a) 平和に対する女性の責任を高めるため、"Women, Influence, Peace" の三事項を相関、連動させるような運動を各国で起こすこと

(b) 国連による『国連婦人の十年』のための自発的基金」を各国で支援すること

(c) 「第三次国連開発の十年」のための国際開発戦略のうち、特に女性に関する条項の履行を各国政府に要求すること

(d) 『国連婦人の十年』の見直しと評価のための世界会議（一九八五）を念頭におき、コペンハーゲン（一九八〇）で採択された世界行動計画を促進させるよう、各国政府に働きかけること

(8) 次期総会（第二二回）はニュージーランドで、昭和六一年（一九八六年）八月末から九月初にかけて開催される。

(9) その他、総会開催中にもたれた各国CIRの会議では、各国間でペアリングを積極的に組み、相互交流を計ること。また、CIRの紹介を受けて、会員が他国を訪問する際は、責任ある紹介と、責任ある訪問者の行動が切望されることが確認された。

2 ポスター・セッションは、上記総会開催中に開かれ、各国から持参したポスターが展示されたが、日本からは、ポスター委員会（五七年度事業報告書参照）が数次に亘る打ち合わせと検討を重ねた結果として、日本における女子の就学率と就職率をコンピューター図案で対比させ、その間のギャップこそが今後のJAUWの課題として残ることを報告した。図柄が色彩的かつデータ分析的であったところから、出席者の多くの関心を集めていた。

3 総会に伴う海外ツアーを従来通り企画し実行した（財務との共催）。尚、ツアーのコースは (1)北欧フィヨルドの旅 (2)南欧イベリアの旅 (3)会議参加とフィヨルド旅行の三コースが組まれ、それぞれ適宜な数の参加者を得て、無事終了した。

4 以上の総会ならびにそれに附随する件の報告を、全国セミナー（京王プラザホテル）で行ったほか、当セミナー報告書および会報一三一号に掲載した。

5 アムネスティ・インターナショナルによる「良心的理由で不当に拘留されている人びとの即時釈放を求める署名」への呼びかけに応じ、国内三〇五名の署名を支部単位で集め、総会のIFUW事務局に委託した。

6 IFUW本部のArchives Project（IFUW関係記録保存のプロジェクト）に関連し、JAUWの関係資料の保存状態を問う質問に対して、書記、財務、会計、会員の各委員会の助力を得て回答をととのえ、本部宛送付した。

7 アメリカの社会学者Elise Boulding氏の要望に応え、国内婦人団体の一つとして、その活動の目的・状況、手段および会員の意識や未来社会への展望などについて、およそ二時間に亘るインタヴューを受けた（五九年二月二日）。出席者はJAUW側から山崎会長、亘理副会長、高野フミ前IFUW会長、中村道子前会長、片山秀子理事（財務担当）、衛藤綾子理事（国外奨学担当）、青木怜子（CIR）の以上七名。

8 AAUWのカリフォルニア州カメリオ支部より、ヴィデオ・テープ"Peace Through the World Integrity"の寄贈を受け、平和目的の達成に役立ててほしい旨、伝言があった。

尚、同テープは本部事務所にて保管。（貸出可）。

9 ESCAP東京会議（三月二六～三月三〇日於経団連会館）にIFUW代表としてインド会長のSaran氏と共に出席。

(B) 人事交流

1 昭和五八年五月、オーストラリア（AFUW）会員のHiraly Rumley氏来日。三～五日（東京）、九～一二日（神戸）、それぞれの滞在地で、本部（福祉、国際第一、日本女子大関係者）、神戸支部が関係施設への案内および接待を行った。

2 五月、香港CIR、Guillian Markey氏の依頼で、神戸在住のイギリス人との連絡を神戸支部に依頼。同支部の尽力を得て用件を果した。

3 五月二一日、オランダ（VVAO）会員Ans Schoot氏来日。委員による接待。

4 六月一八日、南アフリカの会長Hylda Hedge氏宛、同会の六〇周年を記念し、恒例に従い祝辞を送った。

5 六月二五日、AAUW会員M. Dellin氏を囲み茶話会ならびに講演会。（委員接待）。

尚、AFUW会員で来日中のLiane Degville氏をも併せ招待した。

6 七月九日～二〇日、AAUW会員Betty Brown氏来日。電話にて交信。

7 七月九日、AAUW会員Kathline Brennan氏来日。委員による関係施設への案内ならびに接待。

8 七月一一日、イギリス（BFUW）会員Judith Roman氏よりの書信で、点字によるペンフレンドとの交信（五七年度事業報告参照）は徐々に進行中との報告があった。

9 一〇月一日、フィリピン会員で元書記のCarmen Carlos氏来日。東京支部、委員による接待。

10 一〇月二五日、元IFUW第三副会長Hamburger氏来日。旧関係役員および理事による接待。

11 昭和五九年三月五日、カナダ（CFUW）会員Willow Ingham氏来日。委員による接待。

12 三月二七日～二八日、ニュージーランド（NFUW）会員で、IFUW奨学生として来日中のBarbara Ker氏と交信、委員による接待。

13 三月二八日インド大学婦人協会会長Minal Saran氏とニュージーランドFUWのBarbara Ker氏来日に伴い、理事および委員による接待。

14 紹介状

福井洋子氏　アメリカCIR宛

田村喜代氏　ニュージーランドCIR宛

15 クリスマスカードをIFUW役員と事務局職員宛に送付。また各国CIRに対しては、従来のクリスマスカードに代る書信交換が約束されたため、JAUWの五八年度の活動報告をかね、五一か国のCIRに書信を発送。（本部にもコピーを送付）。

16 その他本部および国内外会員よりの問い合わせ依頼事項に関する事務処理。

Ⅱ 事業計画（五九年度）

1 「国連婦人の十年」の八年目にあたる昭和五八年度には、引きつづき「平等、発展、平和」を目標として、全国組織の四八婦人団体が活発な運動を展開した。

大学婦人協会も「国連婦人の一〇年日本大会の決議を実現するための連絡会」（四八団体）「国連NGO国内婦人委員会」（一〇団体）、及び「七婦人団体議会活動連絡委員会」のメンバーとして、婦人の地位の向上、特に「婦人に対する差別撤廃条約」の批准促進のための活動に積極的に参加した。

昭和五八年度の主な活動は次のとおりである。

1 「国連婦人の一〇年日本大会の決議を実現するための連絡会」関係

(1) 優生保護法改正問題をめぐるシンポジウムを開催

引きつづき同法改正案の国会上提が懸念されるところからシンポジウムを開催し、意見交換を行った。

(2) 「国籍法改正に関する中間試案」について要望を提出

法制審議会より提出された同試案に対する婦人の意見をとりまとめ法務省に要望した。

(3) 「年金制度改正に関する意見書」について要望を提出

社会保険審議会より出された同意見書に対し、婦人の立場からの意見をまとめ厚生省に要望書を提出した。

(4) 雇用平等法の立法化がすすめられているところから、婦人団体の意見をまとめ日経連および労働省に申し入れを行った。

2 「国連NGO国内婦人委員会」関係

(1) 国連総会に婦人の政府代表を送るための活動

第三八回国連総会の代表として山崎JAUW会長を推薦、代表代理に任命された。山崎代表代理の歓送会及び報告会を開催。

(2) ESCAP（国連アジア太平洋経済社会委員会）地域政府間会議への協力

国連婦人の一〇年世界会議（一九八五年）の準備のため、三月に東京で開催されたESCAP地域政府間会議に協力し、婦人代表との交流会を開催した。

3 「七婦人団体議会活動連絡委員会」関係

(1) 「婦人参政権行使記念日」（四月一〇日）の行動

統一地方選挙の前日（四月九日）、棄権防止の街頭よびかけを行った。

(2) 優生保護法改正問題に関する講演会を開催

改正反対の立場から講演会を開催した。

(3) 婦人参政権獲得三八周年記念集会を開催

一二月一七日・婦選獲得記念日（総選挙の前日）に、「婦人の一票に求めるもの」をテーマに開催した。

Ⅱ 事業計画（五九年度）

昭和五九年度は引きつづき関係各団体との連繋を密にし、国連婦人の一〇年の目標である「平等、発展、平和」の実現のため、特に「婦人に対する差別撤廃条約」の批准促進のための諸活動に積極的に参加する。

各支部においても、地域の婦人団体および関係機関との連繋を強め、上記の趣旨に沿う活動に積極的に参加されたい。

Ⅲ 委 員（五八年度）

井上 繁子　今井富美枝
藤田 寛子　清宮 和子
亘 節子　野口 敏子

教育委員会

徳末愛子

Ⅰ 事業報告（五八年度）

各支部と協力し、五八年度の全国セミナー「生涯教育を考える」（於東京・京王プラザホテル）開催に際しては、司会、グループリーダー等の役割を通して、参会者の活発な意見を引き出し、新しい創造的な考えが多く出されるよう努力した。今までの人生経験の上にたった個性的な発言が聞かれたのは嬉しいことであった。

同上セミナーの報告書作成に協力し、記録係と共に、できるだけ正確でかつ読みやすく、会場の雰囲気が伝えられるものを作るように心がけた。

Ⅱ 事業計画（五九年度）

Ⅲ 委 員（五八年度）

青木満里子　藤井 賤恵
萩原 芳子　五十嵐康子
飯野 正子　岩田 清美
松井 倫子　松本 悠子
三浦満知子　中村 ミチ
成田 廸子　岡村 和子
鈴木 紀子　田村 安子
青木 怜子

婦人の地位委員会

時枝裕子

Ⅰ 事業報告（五八年度）

1 JAUW会員の職業と家庭生活についての意識調査を行なった。新しいライフ・サイクルの設計のための資料作成と、生涯教育をテーマとする八

三年のセミナーへの参加を兼ねて、二七問から成るアンケート用紙を、各支部長方のご協力により全会員に配布した。全会員中二五%の方が、回答（次頁五段目につづく）

昭和五八年度 支部報告

小樽支部

丸田 孝子

会員数 一九名
支部会費 二、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）

三月六日 総会（於ヴィネ）五七年度事業・会計報告 五八年度事業計画・予算（奨学金贈呈、ダンスパーティ、研修会、レクリエーション）承認。
役員決定
支部長 丸田孝子
庶 務 広川典子
会 計 小林俊子 天野千代 高橋幸子
会計監査 渡辺貞子
三月八日 役員会（於ヴィネ）支部内の基本的運営と目標。レクリエーションのため会員を三班に分ける。
四月一日 JAUW第二六回総会（於福岡）丸田孝子出席
四月二四日 例会（於ヴィネ）二六回総会の報告（丸田孝子）行事計画の決定
五月二二日 例会（於上昇）ダンスパーティ計画（日時）レクリエーション計画（第一班）学習会テーマ決定
六月二二日 本膳料理を楽しむ会（於名取宅）第一班による。
七月二日 奨学資金のためのダンスパーティ（於北深ホテル）奨学金贈呈 小樽女子短期大学 四十物 昭さん（小樽商大一年生）
七月九日 ダンスパーティ反省会
七月二二日 学習会（於勤労婦人センター）読書会 小此木啓吾著「家庭のない家族の時代」（小林俊子）
八月二五日 「ポートランド市における地域社会と幅人の役割」（大学婦人協会札幌支部主催）に参加 渡辺貞子、高橋幸子
九月六日 役員会（於クロワッサン）会計中間報告。上記の会の報告
九月一六～一八日 '83全国セミナー「生涯教育を考える」―八〇年代を生きる―参加、渡辺貞子 高橋幸子
一〇月三日 例会全国セミナー報告（渡辺貞子、高橋幸子）インドシナ難民教授について相談
一〇月一六日 インドシナ難民教援物資荷造りと発送（於上昇）
一〇月二四日 鮎料理を楽しむ会第二班による。
一一月二九日 例会ダンスパーティ打合せ
一二月一三日 クリスマスパーティの抽選会準備
一二月一六日 奨学資金のためのクリスマスダンスパーティ（於北海ホテル）
一月五日 新年会（於国際ホテル）新睦とダンスパーティの会計報告
一月二四日 役員会（於駅前エンゼル）五八年度事業・会計報告作成

II 事業計画（五九年度）
奨学金受賞者の追跡調査

札幌支部

土橋 文子

会員数 六四名
支部会費 二、五〇〇円

I 事業報告（五八年度）

四月一三日 第三五回婦人週間北海道婦人会議へ参加
四月一六日 支部総会 総会終了後懇談
四月二三日 第一回役員会 以下毎月一回
五月二八日 第一回例会 新入会員歓迎懇親会
六月八日 第二回例会 支部セミナー講演「女性が職業を持つことについて―パートタイムの実情等」川島利子氏（婦人文化センター専門相談員）
六月二五日 米国ケープジラード支部の元交流委員長クライノさん一行の歓迎昼食会
七月一六日 第三回例会・支部セミナー座談会「婦人の生き方・考え方―改めて問い直す」一〇年前の同じテーマの座談会出席者五氏（永井信、五十嵐八重子、木幡英子、佐藤京子、蓮池美幸）
八月六日 「女性の生き方と職業」に関するアンケート調査（七月実施）の集約
八月一〇日 講演「ポートランドにおける地域社会活動と婦人の役割―高齢化社会を迎えるにあたっての生き方」マーガレット・ストローン女史（米国ポートランド市コミッショナー）
八月一六日 懇親会 伊藤祐紀子会員宅
九月三日 アンケート調査まとめの検討と全国セミナー発表案の検討
九月一七日～一八日 全国セミナーに土橋支部長、中村(良)、伊藤(千)会員参加
一〇月一日 第四回例会 全国セミナーの報告と懇親会
一一月二六日 第五回例会 講演「アイデンティティということは？（カナダの場合、日本の場合）」ゴーデン・キャンベル氏（北海学園大客員教授）
一月七日 新年会
二月一〇日 第六回例会 佐藤美佐代氏（英語輪読会最年長者）の半生を聞く
三月三〇日 支部誌「あゆみ」第四号発行
●企画委員会 英語輪読会 テキストはシェイクスピア「ヘンリー四世」他。会員一七名を含み三七名参加。通年
●財務委員会 平安かな書道講座 講師 臼井和子 会員 会員八名を含み一六名参加
古典講座 講師 臼井和子会員 会員一二名を含み二五名参加
●報道委員会 ミニ新聞発行

II 事業計画（五九年度）
●各委員会担当による例会
●英語輪読会、書道講座、古典講座の継続
●ミニ新聞の発行
●その他は追って決定の予定

函館支部

吉村 公子

秋田支部

出口 昤子

会員数 七三名
支部会費 一、五〇〇円

I 事業報告（五八年度）

四月一日 JAUW第二六回通常総会に出席
四月一六日 総会（支部）事業計画、予算、役員改選
四月二五日 本部協賛事業実行企画委員会
五月一四日 本部協賛事業実行「性教育について」学習研究会
五月二八日 「青少年の性行動」講演 秋大教授 佐藤 怜氏
六月一八日 「学校での性教育の現状」講演 秋田経法大附高教諭 利部美智子氏
七月二日 「青少年の性的非行の実態」講演 医師 大倉俊弥氏 秋田県婦人警官山びこ電話担当者
七月二三日 「生命の誕生」ビデオ視聴 「生物の性の役割」講演 聖園短大教授 進藤熊太郎氏
八月三日～五日 「性教育全国セミナー」各分科会に出席
八月二〇日 分科会の報告とまとめ 研究会のまとめ作成
九月一六日～一七日 八三全国セミナーに参加（六名）
一〇月二二日 インドシナ難民を助ける会に協力
一〇月三一日 聖園天使園施設の子女に高校入学祝金贈呈
一一月一一日 秋田県婦人会議参加のため「老人問題」を学習
一月二一日 支部新年会 中国からの留学生を招待
一月二五日 県婦人会議、「老人問題」第二回学習会
三月一四日 県婦人会議「くらしを考える婦人のつどい」のなかの「老人問題」
意見発表者 古田千恵子
その他、秋田市と市婦人団体連合会との対話「交通

（前頁より）

を期限までに直接郵送してくださった。回答の主な傾向を、上記セミナーにおいて、中間報告として発表した。

2 パートタイム労働について、JAUW会員の状況と一般婦人の場合を、前記調査に含めた関連質問に対する応答統計と総理府、労働省による全国調査結果により比較検討した。JAUW会員のパートタイム・ワーカーは、概して、高齢においても可能な特技・資格等を必要とする専門的仕事に、課税限度額以上の年収、年金加入、長期間、自営などの条件で従事している。また、パートタイム雇用を不安定雇用としてよりも家庭責任を果たす上で、都合のよい雇用形態と評価している。同時に、職場における男女差別を自分自身に係わることと意識する機会も少ない。しかし、性別役割分業についてはかなり否定的見解を示している。以上のような本会員パートタイム・ワーカーのあり方について、高等教育を受けたこと、女性であること、日本で生活していること等とどのような因果関係で結ばれているのか、さらに将来の婦人の地位に対してどのような影響を与え得るか、というような会員全体にも共通なる点を中心に、研究を続けることにした。

3 学習会的に、民法改正、男女雇用平等法制定、婦人に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約の批准等が個人、家族、社会のあり方に及ぼす影響について話し合った。

II 事業計画（五九年度）
1 前年度に行なった調査の報告書（英文）を発行し、その要旨（和文）を会報に掲載する。
2 同調査報告書を、JAUW各支部、国内関係機関、IFUW加盟各姉妹協会（五〇か国）に、コメント依頼状を添えて配布する。
(1) 支部にはこの調査結果の今後の活用方法等について意見を伺う。
(2) 姉妹協会にはこの調査結果を活用するために必要な、国際比較的設問への回答を依頼する。
3 その他

III 委 員（五八年度）
石沢 ふさ　大島美津子
佐藤 礼子　仙崎千恵子
時枝 裕子　中村久瑠美
中村 道子　丸山 庸子
渡辺登志子

社会福祉委員会

岩城 典子

I 事業報告（五八年度）
1 社会福祉奨学金の贈呈（第一三回）
本年度は四名の応募者がありましたが、社会福祉委員会並びに選考委員会で慎重に審査し、理事会の承認を得て、三名が合格しました。いずれも身体に障害を持ちながら勉学に励んでいる優秀な学生であります。
本年度は小島屋乳業製菓株式会社の大竹福次社長より二〇万円のご出資を頂きましたので、当協会の予算一〇万円と合わせて、昨年と同額の七万円づつを贈呈しました。
2 社会福祉奨学金の募金のため、準備をすすめていますが、現在のところ具体化するに至っておりません。
3 八三年全国セミナーに参加

II 事業計画（五九年度）
1 社会福祉奨学金の贈呈
2 社会福祉奨学基金の募金のため努力する。
3 JAUWの事業に協力する。

III 委 員（五八年度）
亀田 紀子　新谷 弘子
豊倉 桂子　松本 基子
山口 徳子　岩城 典子

報道委員会

蟻川 芳子

I 事業報告（五八年度）
会報 JAUW一三〇号発行（六月二〇日）
同 一三一号発行（一〇月三一日、各会員宛直送）
同 一三二号発行（五九年二月一日）
同 一三三号発行（三月一日、各会員宛直送）

II 事業計画（五九年度）
会報 JAUW一三四～一三七号発行（一三五～一三七号は各会員宛直送）

III 委 員（五八年度）
蟻川 芳子　金子 堯子
後藤 祥子

会員委員会

西村 章子

I 事業報告（五八年度）
委員会 定例委員会一〇回、小委員会二七回
1 会員の現状把握
●会員数、新入会員、退会者、物故会員確認
●会員名簿の整備、会員名簿追録作成
●JAUW会員カード整備
●会員動静ノート（入会、退会、移動、逝去に関して記載）及び会員動静一覧表（入会、退会、移動、海外異動状況）整備
●会員海外異動通知書を作成し、該当者に記載依頼
2 会員の増加に関して
●支部新設のための活動の推進
●理・監事及び地方支部長に入会に関する書類を配布
●大学新卒者にリーフレットを配布
●会員動静一覧表による全国会員数増減の傾向を検討
3 会員慶弔・見舞 おくやみ状 二通 台風見舞 ハガキ三通、電話
4 会費納入に協力 地方支部長に会費未納者一覧表を送付
5 会員委員会の課題研究
(1) 組織の研究
●支部新設の問題について
(2) 広報活動の推進
●リーフレット作成のための会員委員会の記録の整備と外部からの情報収集
(3) 新入会員の把握
6 名簿作成のための整備 支部振興に会員活動の側からの協力
●JAUW 八三全国セミナーに参加
7 IFUW Archives Project に関連したアンケートに対する回答に協力

II 事業計画（五九年度）
1 会員の現状把握
2 会員増加のための活動
会員名簿の整備、JAUW会員カード整備
会員動静ノート及び会員動静一覧表整備
会員海外異動通知書配布後の検討
3 会員活動研究
4 支部（支部活動・支部振興）に対する協力
5 広報活動の推進
6 リーフレット作成準備
7 その他

III 委 員（五八年度）
石上 敏子　今井冨美枝
岡本喜久子　佐藤 芙蓉
朱牟田房子　庄司 ヨシ
鈴木 紀子　西村 章子
平本 珠江　古川 綾子

会員増加推進期間にご協力を

新しく福島支部の誕生を迎え、支部数も三十に達しました。支部組織を強化してJAUWを支える会員を増すことは、新年度にあたり第一に着手する問題と考え、特に若い会員の入会を切に希望いたしております。本年度の当委員会の活動の一つとして、九月から十一月までの三ケ月間を「会員増加推進期間」とし、全会員にご協力をお願い申し上げることになりました。十月には「全国セミナー」来年四月の総会は茨城で科学万博―つくばの見学も計画されており多くの会員の方々と有意義な時を過したいと考えております。

（会員委員会委員長）

社団法人 大学婦人協会 理事・監事名簿 （昭和59年度）

役職名	氏名	出身	〒	住所	電話	勤務先
会長	伊東すみ子	東京	145	大田区田園調布4-42-17	03-721-7300	伊東法律事務所 03-433-2735
副会長	中村ミチ	津 ドレクセル	180	武蔵野市中町2-12-11-430	0422-53-0389	津田塾会（水・木・土）402-7331 津大（金）0423-41-2441
〃	丸山庸子	茶 東京	184	小金井市東町1-11-18	0423-83-3621	
書記	井上章子	茶 東京院	177	練馬区立野町22-16	03-920-1512	共立短大 03-237-2568
〃	川田ひろ	津	176	練馬区中村北4-22-4	03-999-0911	
会計	豊倉桂子	聖	150	渋谷区宇田川町2-1-622	03-476-1550	
〃	長谷文子	津	156	世田谷区桜上水4-1-11-403	03-303-2706	
財務	加藤恭子	茶	154	世田谷区上馬3-12-10	03-421-0134	
国内奨学	成田廸子	実 東都院	152	目黒区南1-15-10	03-723-6276	実践女子大 0425-85-0311
国外奨学	白井常	東女 筑波 トロント院	167	杉並区善福寺2-21-4	03-399-0428	
国際第一	松井倫子	日女 上智院 東都院	153	目黒区東山2-2-2-801	03-713-5211	立教大 03-985-2592
国際第二	野口敏子	奈女	359	所沢市並木8-1 所沢パークタウン並木通団地3-909	0429-95-5769	
教育	白井典子	中央	114	北区中里1-33-4	03-822-1098	白井法律事務所
婦人の地位	時枝裕子	東京	121	足立区竹の塚3-11-6-208	03-884-0383	特許庁 03-501-5980
社会福祉	新谷弘子	日女	154	世田谷区若林2-30-3	03-419-1150	
報道	蟻川芳子	日女 東工院	191	日野市日野台1-19-1-208	0425-85-1607	日本女子大 03-943-3131
会員	西村章子	日女	112	文京区小石川5-21-3	03-811-4968	
東京支部長	富樫絢子	日女	170	豊島区駒込3-15-5	03-918-0200	
監事	徳末愛子	日女	154	世田谷区野沢2-7-12-613	03-418-6800	日本女子大 03-943-3131
〃	山崎みね	津	112	文京区小石川5-19-29	03-941-1293	

問題に関するミニ集会」(六月二日)
市クリーンアップ作戦に救護班として(六月五日)
県婦人問題中央会議(前期)(六月二〇日)
市民文化振興大会「私たちがつくる文化に富んだまち」(一〇月二九日)
施設の子どもたちとおやつを作る会(一一月六日)
青少年健全育成キャンペーンに参加(一一月一七日)
「家計の合理化研究会」県婦人団体連合会開催(一二月六日)
県婦人問題中央会議(後期)「男女の平等」(一月三一日)
市婦人団体連絡協議会「住みよい地域をつくる婦人の集会」(二月一五日)に協力、積極的に参加、会の資金にあてるため不用品(新品)を持ち寄り会員相互又は婦人会館で即売している。

II 事業計画(五九年度)
1 前年度からの継続事業の実施
2 県・市婦団連、その他団体事業への協力、参加
3 四月の総会で、新事業は決定する

仙台支部

大脇 静枝

会員数 約一五名
支部会費 二〇〇円

I 事業報告(五八年度)
六月七日 宮城県各種婦人団体連絡協議会総会
七月一九日 県内研修(仙台簞笥工場、塩釜魚加工場、湧谷町の天平産金遺跡)橋内、鶴見、大脇参加
一一月五日 リヴァサイド市から親善使節団来仙され、仙台市の歓迎会に出席(板橋、島原、小野寺、跡辺、大脇等七名)
一〇月 一泊研修(仙北方面)鶴見
二月二八日 宮城県婦人大会
三月 清掃奉仕、施設慰問

II 事業計画(五九年度)
会員増加につとめる。

新潟支部

伊藤 フミ

会員数 七八名
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告(五八年度)
1 継続事業
(1) 奨学賞授与(第三四回)
五九年一月二八日(於新潟中央公民館)
女子大学生四名、女子高校生一六名
(2) 支部運営資金形成活動(物品販売等)
2 研修活動
(1) 支部テーマ 五八・五九年の二年計画で「女子卒業生(高校・短大・大学)の就職実態調査」を実施し、問題点と解決の途を探ることにした。
五月七日 四月二三日の総会で、本年度の研修テーマを役員会に委任されたので、総会に出された会員の意見を参考に支部テーマを決定し、目的と実施方法について話し合った。アンケートの原案を星山姉に依頼
五月二一日 役員会で、星山姉の調査原案(①学校対象 ②企業対象 ③卒業生対象)について検討した。
五月二八日 (例会) 役員会で検討したアンケート原案を ①学校 ②企業 ③卒業生の部会にわかれて更に検討し、完成することにした。
六月一七日 有志四名、日本リクルートセンター新潟営業所長山下氏を訪ね、アンケートについて助言を受けた。
六月二五日 (例会) 高校・短大・大学(新潟市内一〇校)へ発送文書を完成させて、アンケートの依頼を参会者が分担した。
七月二三日 (例会)「女子新卒者の就職の実態と将来展望について」日本リクルートセンター新潟営業所長山下昌久氏の講演会を開催して、アンケートを依頼した大学・高校及び他団体にも案内し、参加者三二名。
七月下旬〜八月上旬 高校短大・大学からの回答に基いて、企業と卒業生あてのアンケートを完成し、発送先を決定した。
八月九日 83年リクルート男子学生就職シンポジューム(リクルートセンター新潟営業所主催)に会員二名出席
八月二五日 企業 二〇六社、卒業生 四九七名にアンケートを発送
九月一日 83年リクルート女子学生就職シンポジューム(リクルートセンター新潟営業所主催)に会員四名出席
九月二四日 (例会) アンケートの回収状況の報告と集計処理について相談、なお、九月一六日〜一八日の本部の全国セミナーの動向から本年度内にまとめることに決定
九月二七日 「女子学生採用セミナー」(リクルートセンター新潟営業所主催)に支部長出席
一〇月〜一二月 部会にわかれてアンケートの集計と解釈と印刷原稿をまとめ、更に三つの結果を総合してまとめた。
一〇月二六日 新潟婦人少年室主催の「婦人労働者の雇用管理についての研究会議」に会員二名出席
一一月一一日 本部へ中間報告発送
一月一〇日 アンケートのまとめを本部及び協力願った学校・官庁・団体・新聞社・放送局等に発送
一月二八日 第三四回奨学賞を贈る会に、来賓・教師・父兄・受賞者・会員にアンケートのまとめを配布した。また、この日の地元新聞社は調査結果を「話題スペシャル」に掲載した。
調査結果は、企業の受け入れ態勢は前向きであるが、女子の職場拡大のためには、むしろ女子の職業意識の変革と能力の向上が先決ということになったが、更に今後検討を継続したい。
3 会員の動向
八月に元支部長龍岡フサ姉、真島ヒサ姉が逝去された。生前の功績を偲び御冥福をお祈りしている。一名の入会者と一名の退会者がある。今後一層会員増加に努めたい。
4 総会及び定例会
(1) 総会 四月二三日、五七年度事業報告及び決算報告。五八年度事業計画及び予算承認、新役員の紹介と挨拶
(2) 定例会 隔月の第四土曜日の午後に実施。本年は主題の研修及び調査活動を中心に進めてきた。一〇月二二日の例会は、宮山姉の「シルクロードの旅」と山作姉の「ヨーロッパの旅」についてお話願った。一二月一〇日は「忘年会」、二月二五日は「くらしの中でできる健康体操」を計画している。
5 役員会 五月七日、五月二一日、六月四日、七月一八日、八月一日、八月二五日、一〇月一日、一〇月一五日、一二月五日、一月一〇日、二月八日。
6 青少年育成県民会議・新潟市婦人団体連絡協議会・新潟婦人少年室等の事業には、積極的に参加している。

II 事業計画(五九年度)
1 総会・役員会・定例会
2 奨学賞授与
3 会員増加の工夫
4 運営資金形成活動
5 研修活動 五八年度の研修テーマを継続し更に国連婦人一〇年の課題の研修と実践に努めたい。

茨城支部

静間 敏子

会員数 六二名
支部会費 二、〇〇〇円

I 事業報告(五八年度)
四月一日 JAUW第二六回総会
四月二七日 茨城県婦人週間のつどい
五月一四日 JAUW茨城支部総会 五七年度事業報告 五八年度事業計画 会計報告 役員改選
五月二七日 茨城県消費者大会 県民文化センター
六月二日 茨城県婦人問題懇話会
六月一一日 JAUW支部定例会 セミナー準備(第一回)
七月三日 心身障害児のためのバザー 下館市
七月四日 セミナー(第二回)アンケート作成
七月九日 セミナー(第三回)アンケート印刷
七月一五日 四地区にわけてアンケート用紙配布
八月二日 霞ケ浦視察 県水資源対策課主催
八月二〇日 この日までにアンケート用紙回収
九月七日 九月二一日 一〇月五日 一〇月一九日 一一月二日 一一月一六日の六回支部主催 古典講座「源氏物語」
九月七日 アンケート集計始める。
九月一六日〜一八日 '83全国セミナー 京王プラザホテル 支部報告「成人教育調査」
一〇月五日 アンケート調査まとめる
一一月一日 国際交流会 茨城県武道館
一一月二日 科学万博五〇〇日前大会 県民文化センター
一一月四日 茨城県婦人問題懇話会
一一月一六日 婦人と暮らしのつどい 茨城県婦人会館
一二月二六日 茨城県婦人問題懇話会専門委員会
一月七日 JAUW支部新年会 大塚屋
一月二四日 成人教育調査のアンケート結果を日立市の各公民館長に報告・懇談
一月二七日 茨城県婦人問題懇話会
一月三〇日 成人教育調査を支部独自に印刷
二月二〇日 校正
二月二九日 印刷完了の見込 配布

II 事業計画(五九年度)
1 茨城県婦人団体連絡会の構成団体として婦人のつどいを年四回開く
2 心身障害児のためのバザーを茨城県婦人会館にて開き、益金を私立の施設に贈呈する(第一五回)
3 古典講座「源氏物語」を春、秋連続七回づゝ十四回開講
4 支部会報を隔月一回発行する。
5 定例会を奇数月第一土曜日に開く。
6 六〇年科学万博開催に協力する。

栃木支部

遠藤 ミサ

会員数 四五名
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告(五八年度)
四月一日 JAUW第二六回総会 支部長外三名出席
(1) 四月二三日 支部総会 五七年度事業報告及び決算報告
(2) ① 五八年度事業計画 五九年度JAUWの総会の会場を引き受けること。その準備体制に入ること。
② '83全国セミナー(性教育と女子の非行について研究)
③ 奨学金贈呈(ダンスパーティ開催)
④ JAUWの総会に支部長出席
⑤ 盲人への朗読奉仕
五月よりセミナーのため講演会及び現場調査を行なう。
(1) 講演会
●医学博士 南里栄子氏(①性教育 ②女子少年の妊娠について)
●山口美智子氏 宇都宮家庭裁判所少年部(性と非行との関係について)
●山本和代氏(生涯教育について)
(2) 現場調査
栃木県警察本部防犯少年課を始め、宇都宮家庭裁判所少年部、宇都宮少年鑑別所、県・市の教育委員会及び高校、中学校、小学校の性教育の実態を調査する。
五月〜七月の三ケ月間に行った。数回の討議をなす。八月に調査研究をまとめる。九月に発表する。
七月二四日 支部長、IFUWの総会に出席のため出発 外一名。
一〇月一五日 ダンスパーティ開催
一〇月二九日 奨学生選考会
一一月五日 奨学金贈呈
一一月〜三月 総会の準備
一月五日 本部と具体的な打合せを行なう。
一月一八日 総会の諸書類を発送。二月二〇日申込締切
その他
●県・市の地域婦人会議へ出席
●宇都宮市、大学誘致委員会のメンバーとなる。
●年間を通して盲人への朗読奉仕活動を行なう。

II 事業計画(五九年度)
1 奨学制度の推進の為ダンスパーティの開催
2 性教育の研究を進めていく(主として性と非行について)
3 盲人への朗読奉仕活動
4 地域婦人団体との協力及び交流

群馬支部

池本やよひ

会員数 四六名
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告(五八年度)
三月三一日〜四月一日 JAUW総会 支部長代理として村田氏出席
四月一〇日 支部総会(午前)総会後、小委員会を下記の目的により結成。
JAUW(一二九号)一九八三年度事業計画にそい、支部として(校内暴力はなぜおきるか)を取上げる。
午後(高野フミ先生をお囲みして、有志)
六月七日 各種婦人団体連絡協議会 理事会出席
六月一三日 第一回
七月二〇日 第二回
九月一一日 第三回 } 小委員会(群馬県における非行の実例を中心として進めることに決定)
九月一六〜一八日 '83全国セミナーに参加 発表
八月二七日
一〇月一日
一〇月二二日 } 群馬県婦人大学 有志参加
一一月二六日〜二七日 同右 宿泊研修
一一月一一日 中国婦人を迎えての歓迎レセプション 出席
一一月一三日 中国婦人を囲んでの群馬婦人の集い 有志出席
一月二二日 新年会
三月二二日 アジア太平洋地域婦人国際シンポジウム(国際協力への婦人の貢献)に参加
昭和五八年度群馬県婦人リーダー専門講座会員参加

II 事業計画(五九年度)
三・四月 本部総会
五月 支部役員会及総会
この間、講演会及県主催婦人団体行事に協力
一月 新年会、役員会等

長野支部

宮沢まさ江

会員数 二四名
支部会費 五〇〇円

I 事業報告(五八年度)
五月一一日 役員会 支部総会の準備打合せ会
五月二九日 支部総会
(1) 五七年度の事業報告及び会計報告
(2) 五八年度の事業計画
(3) 第三部のテーマ「生涯教育について」会員の話し合い
七月一日 講演会(於住友生命ビル)
講師:日本テレコムシステム常務 大峡昭吾氏
演題:「情報化時代に生きる——情報と知識の世界」
七月一六日 支部例会
「生涯を通じての人間教育——特に婦人と生涯教育」について
会員同志の研修会
八月一日〜二日 婦人教育セミナーAブロック研修会に支部長及び会員五名参加
八月一七日 役員会 '83全国セミナー出席の件、その他
九月六日 役員会
九月一六日〜一八日 「生涯教育を考える」'83全国セミナーに支部長と書記の二名出席
一〇月八日 支部例会
(1) '83全国セミナーの報告
(2) 「食用キノコ類の白ネズミ血漿コレステロール低下機構について」
信州大学教育学部教授 徳田節子氏の講演
一月二〇日 役員会 支部親睦会の打合せ会
二月一八日 支部親睦会(於五明館)
三月 次年度役員引きつぎ会

II 事業計画(五九年度)
1 総会
2 その他の五九年度事業計画は新役員決定後に詳細を決める。

東京支部

山崎みね子

会員数 八三一名
支部会費 二、〇〇〇円

I 事業報告(五八年度)
四月一日 JAUW第二六回総会に有志出席
四月一八日 講演会 於国立教育会館
「生涯教育と立教大学法学部社会人入試制度について」
立教大学法学部教授 野村浩一氏
五月一四日 東京支部総会 於国立教育会館 記念講演「都市開発の動向について」住宅・都市整備公団理事 吉岡昭雄氏
五月二四日 筑波研究学園都市見学(財務委員会と共催)
六月・七月・八月 JAUW全国セミナー「八〇年代を生きる 第三部 〝生涯教育を考える〟」に参加のためのアンケート調査「今、私達が求める成人教育とは」のまとめ
委員会 八回
八月三日〜一一日 IFUW第二一回総会に有志参加
九月一六〜一八日 '83全国セミナーに参加
一〇月七日 民法講座開始 月一回第一金曜全六回 於国立教育会館 講師 弁護士 伊東すみ子氏(東京支部会員)
一一月四日 民法講座 第二回
一一月二三日 留学生を囲むお茶の会 於日本YWCA(国外奨学委員会と共催)
一一月三〇日 映画会「舞台の裏から歌舞伎をみる」於国際文化会館
一二月二日 民法講座 第三回
一月一一日 民法講座 第四回
一月一四日 国内奨学金贈呈式 於国立教育会館(国内奨学・社会福祉両委員会と共催) 記念講演「日本人にとっての国際化とは」朝日新聞編集委員 下村満子氏
一月二〇日 中国語講座開始「中国語入門と中国の現代事情」 毎週金曜日全一〇回 於津田塾同窓会館 講師:中日貿易新聞編集長 野上 正氏
一月二七日 中国語講座 第二回
二月三日 民法講座 第五回
二月 中国語講座 第三・四・五・六回
三月二日 民法講座 第六回
三月 中国語講座 第七・八・九・一〇回
定例会
委員会 毎月第二水曜日
俳句会 毎月第一水曜日
読書会 毎月第二火曜日
(一月は新年かるた会)
社会奉仕
社会福祉法人「愛隣会」へ年末の寄付
聖心女子学院みこころ会テープサービスへ寄付
使用済み切手をユネスコ善意銀行へ寄贈

II 事業計画(五九年度)
四月一四日 映画会「薄墨の桜」外
五月一九日 東京支部総会 於国立教育会館 記念講演 永井道雄氏
JAUW全国セミナーに参加
委員会 毎月一回
俳句会 毎月第一水曜日
読書会 毎月第二火曜日
社会奉仕 社会福祉団体への年末の寄付、使用済み切手の寄贈
民法講座・中国語講座 続行を考慮中
その他 五月の支部総会後に決定

神奈川支部

石橋紀美代

会員数 六一名
支部会費 一、〇〇〇円
(会費未納者約半数)

I 事業報告(五八年度)
五八年度もまた、支部としての自主的な行事をせずに終始致しました。一日も早く本当の支部長をきめる筈でしたのに実現への努力不足で申しわけない事でございます。県からのよびかけに応じ、又かながわ女性会議なるものに参加する等々で、特に事業と言えることは何も致しませんでした。

II 事業計画(五九年度)
五九年度の予定についても、目下皆無の状態で新しい支部長によって当支部が活発になる事を願っております。

静岡支部

三浦 昭子

会員数 四六名
支部会費 二、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
四月一日 JAUW第二六回通常総会に支部長出席
四月八日 支部役員会、支部総会に提出する五八年度の事業計画と新しく発足した県婦人協会の加入について検討する。決論は出ず支部総会に委ねる
四月一六日 支部総会（於県総合社会福祉会館）一七名出席
五七年度事業報告、会計報告、第二六回総会報告
五八年度事業について審議し次の事項を決定
(1) 新設の県婦人協会へ、支部会費値上げをして加入し、支部活動の活性化を図る。
(2) 文部省補助事業への具体的取組みをしないで、全国セミナーへの参加を考える。
(3) 楽寿の園（特別養護老人施設）への奉仕を年間六回実施する。
(4) 静岡女子大公開講座に参加する。
(5) 静岡市奉仕活動連絡協議会（略奉仕連）のメンバーとして奉仕活動に協力する。
(6) 公開講座やセミナー参加後の処置をして、聞き放しに終らせないよう配慮する。
四月二三日 婦人協会総会
四月二七日 県総合社会福祉会館開設式
五月一〇日 県下婦人団体の代表者会議
七月一三日 県婦人大会実行委員の委嘱を受け第一回実行委員会に出席（一二団体）、以後八月一九日、九月一六日の三回に及ぶ。
七月二〇日 家族に関するシンポジウム参加
八月一～二日 花王石鹸研究所（宇部宮）へ婦人協会として生活科学見学会に参加。
八月二六日 婦人協会臨時総会開催。加入団体を三つに分け（情報、コミュニティ、教育）活動を具体化。情報部会に所属。
九月一七日 婦人会情報部会（第一回）開催、以後一〇月二二日、一一月一日、一一月一二日の四回に及ぶ。
一〇月二七日 奉仕連と市長が語る会
一〇月二八日 県下婦人団体の代表者会議
一一月三日 奉仕連バザーに出品し協力する。
一一月九日 県の婦人総合プラン策定の促進を行政へ働きかける（有志一四団体の一つとして）
一一月二九日 県婦人大会七名参加
一二月三日 県婦人総合プラン策定を促進する会を三〇名の呼びかけ人（うち一一名は支部会員）によって開く。名古屋市民局婦人問題担当室長 中山恵子氏を招き講演、七〇名（うち一四名は支部会員）策定実現まで活動を続けることの合意を得た。
一二月一〇日 支部会 全国セミナー報告、女子大公開講座の感想、静岡新聞社から四〇日間にわたり家庭婦人として教育視察をなさった森口昭子会員の土産話などの後、忘年会を兼ねた。二三名出席。
一月二〇日 婦人会館臨時総会
一月二八日 役員会 来年度事業計画を検討。大体五八年度通りに実施を予定する。即ち(1)楽寿の園奉仕、(2)公開講座への参加、(3)婦人協会への協力、(4)奉仕連活動に参加、(5)雇用平等法関係の勉強会開催など。
三月三日 婦人会館フェスティバルに参加。
●楽寿の園奉仕について、実施日は五月二五日、七月二五日、九月二七日、一一月二二日、一月二五日、三月二七日の六回、五回までの参加者は一名で延べ二一名。
●公開講座参加について
(1) 七月六日～七月二七日 週二回づつで七回の婦人人材開発セミナーに六名参加。
(2) 九月三〇日～一二月二日 週一回づつで一〇回の婦人問題基礎講座に一〇名参加。
●新入会員が三名、退会者四名で、一名減となったが、来年度四名の新入会員が予定されている。会員増強は活動の基本にもなるので、会員一同、なお一層努力したいと考えている。
●全国セミナーへは五名が参加。
II 事業計画（五九年度）
四月七日 役員会
四月一六日 支部総会にて決定の予定。

愛知支部

三輪 ふさ子

会員数 七五名
支部会費 一、五〇〇円

I 事業報告（五八年度）
四月一六日 講演「八〇年代の経済と暮し」講師 石郷岡克男氏（名古屋商科大学教授）於YWCA出席者 約二〇名
六月一九日 講演「性教育、中絶問題などについて」講師 聖霊病院シスター小山 於名古屋勤労婦人センター 出席者約二〇名
九月一一日
●印度料理を学ぶ会
●講演 第二一回国際会議報告 講師 三輪ふさ子 於第一生命ビル 出席者二七名
一一月二七日 バスツアー 静岡市登呂遺跡 印度からの留学生 Dr. Padmini Kedar を招待する。
一二月一一日 観能会 収益金の一部、会へ寄附
一月二一日 ●新年宴会
●'83全国セミナーの報告講師 三輪ふさ子
三月一一日(日) 講演「女性と法律」講師 松倉耕作氏(南山大学助教授) 於YWCA
II 事業計画（五九年度）
四月 総会
六月 座談会
七月 講演会
九月 講演会
一一月 バスツアー
一二月 観能会
一月 新年宴会
三月 留学生交歓会

岐阜支部

道家 とき

会員数 一五名
支部会費 二、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
四月 役員変更届提出
支部長 道家とき
会 計 松井恵美
書 記 森 基子
五月一一日 支部役員会
1 支部総会開催について
2 その他本年度事業計画
本部継続テーマ「八〇年代を生きる――高齢化社会を迎えて――」生涯を通しての人間教育をふまえて、支部のテーマを左記のように定める。
「女性のライフサイクルの研究、老人福祉の研究」
五月二八日 支部総会 於岐阜会館 出席者 五名
オブザーバー二名
（入会資格者に呼びかけ、当日参加された方々）
事業報告、会計報告、予算審議
八月五日 支部役員会
1 秋の例会開催について
2 全国セミナーへの御案内
一〇月四日 支部例会
「高齢化社会を迎えて」
(1) 女子学生の結婚観と家庭像
報告者 松井恵美
(2) 新らしい家庭像を求めて 報告者 道家とき
(3) 高齢化社会と老人問題
報告者 森 基子
二月四日 新年親睦会 出席者 七名

II 事業報告（五九年度）
●支部総会 五月頃 第二七回通常総会の報告
●支部例会 一〇月頃
懇談会
●新年親睦会 二月頃

福井支部

木村 温美

会員数 一八名（内二名は来国留学中）
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
1 会員増加 今年新しく五名の入会を得た。いづれも大学又は官庁の専門職であるので、今後の活躍がまたれる。
2 留学生との交歓会及び在福井外国婦人（大学卒・有職）との懇談会 三月。

II 事業計画（五九年度）
1 総会
2 会員増加の努力
在北陸地域外国人との交歓

京都支部

久保 貞子

会員数 一六一名
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
毎月一～二回委員会を開く
四月九日 支部総会（第一部）
●第二六回通常総会報告
●昭和五七年度支部事業会計、会計監査報告
●昭和五八年度行事予定について
●役員交替紹介
（第二部）
講演会
講師 寿岳章子氏（京都府立大学教授）
演題 「言葉にかかわる女性」
五月一〇日 五月例会（PPSEAWAと共催）
室内楽 ベートーヴェン木管三重奏曲 京都大学オーケストラ有志
講演 「国連うら話とアメリカ事情」 講師 山崎倫子会長
六月一八日 六月例会
講演「心理学からみた人間」 講師 深田尚彦氏（同志社女子大学教授）
九月二四日 九月例会
第二一回IFUW総会の報告とスライド
●総会のあらまし 久保貞子
●グロニンゲン会議のあれこれ 中川洋子
●オランダ、ベルギーの旅 松山宜子
一一月一日 一一月例会
アジアを学ぶつどい
第一回（PPSEAWAと共催）
講演と懇談の集り
主題「バングラディシュの生活と文化」
講師
●アリタフ・アリ氏（バングラディシュ国家計画委員会首席農務官）
●モウラ・ネアーズ氏（京都大学農村経済研究所研修員）
●同夫人
●渡辺枚子氏（サラウディン氏夫人）
一二月一〇日 一二月例会
講演とスライドの集り
演題 「東西ドイツの旅から マルティン・ルターの法的に見た婦人の地位の動向」 講師 弁護士 岸本洋子氏
九月二四日 ●本年度神戸支部研究テーマ「高学歴女性の職業に対する意識調査」アンケートの結果報告、研究担当 山本祥子氏
●第二一回IFUW総会並びに旅行のスライド及び報告
一〇月二〇日 秋季バス見学旅行（前掲）
一一月二六日 講演「グローバルな視点から見た六甲」 講師 大阪市立大学名誉教授 藤田和夫氏
一月二八日 講演「中高年問題を考える」 講師 大阪市立大学生活科学部教授 本村 汎氏
二月二五日 講演「家事の社会化」――最新のキブツ情報 講師 聖和大学教授 石垣恵美子氏
三月二四日 講演「私の歩んだ道 女性アナウンサーとして」 講師 NHKアナウンサー 村田幸子氏
インドシナ難民に物資を送る

II 事業計画（五九年度）
●講演を主とする月例会（四月に支部総会）
●役員会、小委員会
●催物「東 敦子 ソプラノリサイタル」（六月二〇日、於 神戸文化ホール）
●秋季バス見学旅行
●ペルトン支部との交流
●全国セミナーのテーマにそって研究参加・発表。

神戸支部

生島藤根子

会員数 三〇〇名
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
●月例会毎月第四土曜日、但し四月は総会、八月・一二月は休会
●役員会毎月第1木曜日、小委員会、研究会十数回
●神戸支部会員の名簿作成
●兵庫県の姉妹県西オーストラリア州より豪日交流基金で来神されたヒラリー・ラムレイ夫人（文化人類学専攻）の接待、案内
●研究テーマ「高学歴女性の職業に関する意識調査」のアンケート配布、回収、集計
●米国ミズリー州ベルトン支部との交流（ベルトン支部会員来神の際の接待及びクリスマスカードの交換）
●IFUW総会に出席 神戸支部会員七名
●秋季バス見学旅行（平福郷土館、瑠璃寺、山崎町の正木国枝様宅で本藍染め実習）
●「一九八三年神戸支部のあゆみ」（全国セミナーの研究、IFUW総会参加の記）の発行
●小バザーを数回開く。
例会明細
四月二三日 支部総会
1 第二五回通常総会報告
2 五七年度神戸支部事業報告
3 五八年度事業計画、予算審議
4 役員選挙、新旧役員交代
5 五七年度国内奨学金受賞者研究発表
五月二一日 講演「西オーストラリア大学に於ける女性の研究活動について」 講師 西オーストラリア大学研究員（文化人類学専攻）ヒラリー・ラムレイ夫人
六月二五日 講演「海のシルクロードとオランダ東インド会社」 講師 小原流芸術参考館副館長 三杉隆敏氏
七月二三日 講演「最近けてゆく予定なるものも、詳細は新年度の企画委員会による。

生駒支部

会員数 三〇名
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
五月一一日 支部役員会
1 支部総会開催について
2 その他本年度事業計画
本部継続テーマ「八〇年代を生きる――高齢化社会を迎えて――」生涯を通しての人間教育をふまえて、支部のテーマを左記のように定める。
「女性のライフサイクルの研究、老人福祉の研究」
五月二八日 支部総会 於岐阜会館 出席者 五名
オブザーバー二名
（入会資格者に呼びかけ、当日参加された方々）
事業報告、会計報告、予算審議
八月五日 支部役員会
1 秋の例会開催について
2 全国セミナーへの御案内
一〇月四日 支部例会
「高齢化社会を迎えて」
(1) 女子学生の結婚観と家庭像
報告者 松井恵美
(2) 新らしい家庭像を求めて 報告者 道家とき
(3) 高齢化社会と老人問題
報告者 森 基子
二月四日 新年親睦会 出席者 七名

II 事業報告（五九年度）
●支部総会 五月頃 第二七回通常総会の報告
●支部例会 一〇月頃
懇談会
●新年親睦会 二月頃

奈良支部

辻井 康子

会員数 八七名
支部会費 一、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
四月一一日 JAUW第二六回通常総会に五名出席
五月一四日 支部総会
議事
(1) 昭和五七年度会計決算報告
(2) 昭和五八年度事業計画ならびに予算案
(3) 支部規約の制定
(4) 新役員の選出（支部長 辻井康子、副支部長 菅沼美子）
昼食 春日大社「中旬の献」
「生誕五〇〇年を記念して」 講師 高橋千夏氏
一月一七日 一月例会 新年親睦会
二月七日 二月例会
バザー開催
三月五日 三月例会
アジアを学ぶつどい
第二回（PPSEAWAと共催）
講演 「私のみたフィリッピン事情」 講師 青木満理子監事
その他
九月一二日 タイ大学婦人協会に教材用玩具を発送
一〇月二四日 インドシナ難民への救援衣類の発送

II 事業計画（五九年度）
四月七日 支部総会
（第一部）
第二七回通常総会報告
昭和五八年度支部諸報告
昭和五九年度行事予定について
（第二部）
講演会
演題 「日米関係あれこれ」 講師 オーティス・ケリー氏（同志社大学教授）
その他の予定（右記支部総会にて決定する）
●「国際理解と協力」を重点課題とし、その研究の一環として前年度開始した「アジアを学ぶつどい」を継続する。留学生との親睦交流を図る
●支部運営資金を得るための行事
●会員増加活動
●例会（年間八回見当）
●委員会（月一～二回）

大阪支部

本庄美智子

会員数 一四〇名
支部会費 二、〇〇〇円

I 事業報告（五八年度）
五月三日 支部総会 事業報告、新役員選出、新年度計画発表後、関西芸術座の新屋英子氏による一人芝居「身世打鈴」を観賞、差別問題の深刻さをあらためて考えさせられた。
六月五日 奈良「依水園」の名庭園を観賞、会食しながら会員山崎雪子氏の「茶」の話をきく。
七月二三日 講演「法医学の話」 和歌山県立医大教授 若水長英氏
九月一〇日 講演「これからの高齢化社会における婦人の生き方」
弁護士 井野口有市氏
一〇月二九日 歴史散歩
第一回 上町台コース
四天王寺をふり出しに生国魂神社から谷町筋へ、上町台地に歴史をさぐりました。
教育委員会文化振興課主任学芸員 長山雅一氏引率
一一月一九日 見学 万博公園をたずねて「日本民芸館」を観ました。
一二月三日 歴史散歩 第二回 平野郷コース
前回通り長山雅一氏の引率で平野方面へ。
一月二一日 「しゃべろう会」会員の自由な発言で支部のあり方等いろいろ希望や意見を出し合いました。
二月二五日 講演「説得と納得」（人間関係をよくする方法）広報評論家 山根英夫氏
三月二二日 見学と懇親の会 大阪市立東洋陶磁美術館にて「李朝白磁展」を見学、有志は「花外楼」にて昼食、女将より話をきく。
以上の例会の他に、本部のセミナーに協力、調査研究のためアンケートを実施。そのための集りを数度にわたって持つ。又、別に企画委員会等の役員会も数度持った。秋には本部セミナーに出席、帰ってから支部会員に報告した。
二月五日には奨学金を、小田紀子氏（大阪大学大学院生）に伝達した。又、前年より引つづき、会員山崎雪子氏による短歌散歩（第二火曜）、古切手集め等も行なった。

II 事業計画（五九年度）
大たい五八年度と同じように月例会を持ち、会員増加に重点をおいて計画をたて、短歌散歩、その他を続

民法講座・中国語講座で学ぶ

東京支部

若井　綾子

東京支部の年間を通じての活動は(1)本部との共催(2)全国セミナーへの参加(3)支部独自のもの、に分けられるが、ここでは主に(3)について詳述し(1)(2)からは(3)に関連のある事柄だけを述べさせて頂く。

先ず全国セミナー参加のために「今私達が求める成人教育とは」をテーマとし支部会員の成人教育参加状況のアンケート調査を行った。参加後、更に各大学の公開講座や区の成人教育講座等を調査、区の催しに無料で質の高いものがあることを認識した。これらをまとめて便利な一覧表として支部会員に送付した。次にこの調査の中で要望の特に多かったものを講座として開くこととした。

(1)「民法講座」弁護士伊東すみ子氏(現会長)にお願いし月一回全六回終了の形で行った。参加会員は比較的年齢が高く、夫婦親子の問題、扶養相続遺言、借地借家法等身近な問題の法的知識を得たいという切実さが感じられた。要望が多ければ続けることも考えられる。

(2)「中国語の入門と中国の現代事情の講座」中日貿易新聞編集長野上正氏を講師にお願いし二時間の前半は中国語、後半は中国事情のお話。教科書はカセットテープ付。且て大陸でジャーナリストとして活躍された先生の語られるなまの中国は魅力である。少数グループながらこの機会に中国語に親しみ何れはかの地へ旅してというのもこの講座の実現可能な夢である。週一回全十回という当初の予定を了え、引続き四月から月二回全八回の予定で現在続行中。

次に講演会を三回行った。

(1)「生涯教育と立教大学法学部社会人入試制度について」講師　立教大学法学部教授野村浩一氏生涯教育に関連した具体性のある講演で同学部に社会人入学された支部会員から同時にお話し頂いた。(講演内容は会報一三〇号に記載)

(2)「都市開発の動向について」講師　住宅・都市整備公団理事吉岡昭雄氏これは後に予定されていた本部共催の筑波研究学園都市見学に関連して伺ったものである。

(3)「日本人にとっての国際化とは」講師　朝日新聞編集委員下村満子氏　次の全国セミナーのテーマ「国際理解と協力」への導入としてアメリカ事情に精しい下村氏に特にお願いした。キャリアウーマンとして活躍中の氏の個性が充分に発揮されたすぐれたお話であった。

(要旨は会報一三二号に記載)

その他映画上映会二回

(1)「舞台の裏から歌舞伎を見る」

(2)「薄墨の桜・絵図に偲ぶ江戸のくらし」PRの時間があってこれには百名以上の参加者があった。年間一度ぐらい上質な映画の上映会があってもよいと思う。

以上が年間を通じての支部活動のあらましである。

様々な講座や講演会、研究会、文化サークルを開き、多種多様な個人の志向に応えるように努めてはいるが、東京のような大都市では支部としてどうしたら多勢の会員に参加して頂けるか、どんな事を行ったら会員の共鳴を得られるかが問題で、その特色を生かした何か、を常に模索している現状である。反省をこめて今、情報を得、又伝達する効果的な方法・時間と、何を行うかという企画とが何よりも大切なのではないかと痛感している。

会員の皆様御自身も享受されるためよい提案をお寄せください。そして旺盛な好奇心を以て御参加くださることをお願い申し上げます。

新入会員

(昭和58年2月8日～5月23日現在)　(57名)

札幌支部(3名)
新保弥代枝　津
堀内満智子　北教
山森　淑子　津

秋田支部(1名)
利部美智子　秋田

新潟支部(2名)
歌城　純子　新潟
竹村　チョ　日女

茨城支部(3名)
市川　昭子　早
平田　洋子　相女
前田　節子　立

栃木支部(3名)
石川　一江　宇都宮
加藤　佑子　東邦
須賀万里子　日女

群馬支部(1名)
岡崎みゆき　青学

東京支部(29名)
伊原　睦子　東女・ICU院
今井　輝子　津
今井　規子　立
今井　洋子　津
植木由美子　成蹊・国立音
宇田川尚美　日女
大槻弥栄子　日女
岡庭　陽子　日女
加藤　僚子　一橋
神山　妙子　東女
河本　清子　聖・院
佐々木要子　芸大
佐藤　敏子　津
白井　常　東女・トロント院
筑波　茶・青学院・インディアナ
関口　富佐　和洋・慶応院
関口はつ江　副島　節子　日女
田中　佑子　茶
丹治　元子　日女
永松　尚子　津
新羅　朱美　日女
蓮江　久子　日女
林　美津子　上智・院
藤崎千代子　聖
古川　セツ　日女
森永知恵子　日女
山田　貞子　日女
山村　敬子　日女
吉原　俊江　日女
静岡支部(4名)
渥美実和子　青学
沢田　鈴代　日女
永倉みゆき　茶
藪崎　史子　北里
愛知支部(1名)
永井津矢子　金城
福井支部(1名)
高田　洋子　東学院
神戸支部(4名)
奥村　敏子　同女
竹田喜代子　奈女
富田伊勢子　京女
藤田　厚子　同女
広島支部(2名)
中川佳津子　慶応
馬越英美子　日女
山口支部(1名)
内田富美子　山口女
大分支部(1名)
小手川英子　日女
熊本支部(1名)
馬場　郁子　熊女

EP(国際幼児機構)の会合に参加された時のお話をうかがいました。

一二月一一日「高知大学留学生を支援する会」主催のお料理作り参加。インドからの留学生の方に菜食主義のカレーを教わりました。

II　事業計画(五九年度)

具体的にはまだきまっておりませんが、何らかの形で勉強会を持ちたいとの新支部長の御意向です。

大分支部

篠　美知

会員数　二〇名
支部会費　そのつど徴収
I　事業報告(五八年度)
活動目標
①　JAUWの方針及び活動目標に準じ、且つ支部独自の方向を探る
②　会員相互の親睦・社会活動促進
③　昭和五九年度役員交替準備
四月　●JAUW総会(蒲田、平岡、篠)三名参加
●JAUW会員の働き方ー意識と実態アンケート、電話聞き取り
七月　●支部総会　大分婦人少年室長、同補佐
●婦人総合センター建設の原資料蒐集のため神奈川視察　担当　宇都宮
●支部総会報告通信
●県婦人団体連絡会議　篠、浦田、松比良　三名出席
九月　●国内奨学生(一般)分大推薦(残念ながら選考もれ)
●研究学徒　(別大　該当なし)
●アンケート電話連絡
●'83全国セミナーに二名出席
二月　●事務連絡　会員状況把握
●婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約の完全批准に向けて国内法整備について申し入れ、労働省婦少局、大分婦少室関係者宛て
II　事業計画(五九年度)
活動目標　前年度と同じ。
四月　●支部総会、他前年度と同じ。　担当　立川

二月　●支部例会　新年度に向けて
備考
1　県行政段階に於ける公職獲得、働きかけ。
2　会員の役割をしっかりと分担することにより新旧役員交替を完了したい。
3　会費納入と新会員募集

熊本支部

高見多恵子

会員数　三三名(新入会四名、転出一名)
支部会費　二、〇〇〇円
I　事業報告(五八年度)
四月一日　JAUW総会出席　三名
五月五日　支部総会　金森貞子氏　送別会
六月　本部アンケートに協力。アムネスティ・インターナショナルの署名協力
七月一日　'83全国セミナー委員会(シンポジウム「女子高校生の性的問題行動について」発表者(岩村昌子、荒木ケイ子、出井ヤスコ、佐方宏子、日吉嘉子)
八月二二日　'83全国セミナー委員会(シンポジウムのレジュメ作成)
九月一七日　'83全国セミナー出席　二名　分科会にて発表(日吉嘉子)
一〇月二二日　講演会　熊本文化協会専務理事　沖津正巳氏「西ドイツで考えたこと」
一〇月二四日　インドシナ難民を援ける会に協力(衣類約二〇〇点、送料一三、〇〇〇円)
二月一二日　講演と実技「どうなる、女子非行」講師　教育大名誉教授　平田　昌氏
三月　'83全国セミナー報告と反省会
II　事業計画(五九年度)
JAUWの方針と活動に即応する。
支部としては例年のように、公開講演会、勉強会、座談会、社会奉仕など(詳細は春の総会で決定)

福岡支部

筒井　和子(ムツ)

会員数　九一名
支部会費　一、〇〇〇円
I　事業報告(五八年度)
四月一日　JAUW第二六回通常総会開催　場所　福岡市西鉄グランドホテル
出席者　一五三名
出席支部　二二支部
五月二一日　支部総会　事業計画、その他
講演「新しい婦人問題」
講師　福岡市立婦人会館々長　中村イツ子氏
七月三〇日　例会
講演　五斗美代子氏　その他　福岡女子大生　庄崎さんへ奨学金贈呈
九月一日　福岡支部長交代　新任　筒井和子　退任　竹原コト
九月一六日～一八日　'83全国セミナー出席　二名　教育大名誉教授　平田昌氏、　支部長　筒井和子
一〇月二二日　例会　講演と実技　中国武術研究会　河上洋子氏(太極拳と私)
三月　'83全国セミナー報告と反省会
II　事業計画(五九年度)
JAUWの方針と活動に即応する。
支部としては例年のように、公開講演会、勉強会、座談会、社会奉仕など(詳細は春の総会で決定)

長崎支部

玉木ますみ

I　事業報告(五八年度)
五月二一日　長崎支部総会出席者　一五名
議題・庶務
●五七年度庶務および会計報告
●役員選出

ラレクラリーノ事業本部商品企画開発部　加藤健一氏

山口支部

中村　秀子

会員数　三八名
支部会費　二、〇〇〇円(昭和五八年度)
I　事業報告(五八年度)
四月一日　JAUW福岡総会評議員会
四月二七日　第三五回婦人週間行事討論会
六月一日　婦人団体連絡協議会
六月一九日　支部総会
六月二四日　国際理解のための婦人セミナー
六月二七日　国連NGO婦人団体会議
七月一一～一二日　ユニセフ研修会
七月一五日　国連総会講演会
七月一六日～五九年二月一八日　婦人コミュニティーリーダー養成講座
七月二四日～八月一〇日　IFUWオランダ総会とツアー
八月一〇日　料理講習会指導
九月一日　婦人指導者研修会
九月二二日　婦人団体連絡会議
九月二五日　岩国米軍基地見学
一〇月一一日　国連NGO婦人団体会議
一〇月三〇日～一一月五日　姉妹都市行事国際交流
一一月一三日　東南アジア青年歓迎会
一一月一九日　祝賀会　支部長教育功労賞受賞記念
一一月二一日　国連NGO婦人団体会議
一月二九日　講演会
三月二二日　アジア太平洋地域国際シンポジウム
II　事業計画(五九年度)
JAUW総会
支部総会
見学
シンポジウム
講演会
地域婦人団体との連絡交流会
役員会

愛媛支部

太田万寿子

会員数　一二名
支部会費　一、〇〇〇円(五八年度)
I　事業報告(五八年度)
六月一二日　「高知大学留学生を支援する会」主催の交流会に参加。持ち寄り昼食とゲームを楽しみました。
一〇月二九日　支部会　会員の池田起巳子様から、スイスで開催されたOM以上の五八年度の事業報告に準じて、会員の方へ講演会の御案内をしたり、また親睦会などを催したいと予定して居ります。
II　事業計画(五九年度)
知行動の発達〃　田中薫助教授
一月一二日　〃幼児の認
石田明教授
一月一二日　〃地理上の発見前後〃
一助教授
一月五日　〃一八世紀英国の女性たち〃　相沢興
赤星千寿教授
一月一五日　〃いま食生活を考える〃
講師　京都大学霊長類研究所　河合雅雄教授
九月二四日　長崎県立女子短大公開講座の案内
九月二八日・一〇月一日　〃バレーボールを通しての婦人の健康づくり〃
吉居三郎教授
一〇月二九日　〃衣類の手入れ〃　前川清子助教授

高知支部

鈴木　高穂

会員数　一二名
支部会費　一、〇〇〇円(五八年度)
I　事業報告(五八年度)
六月一二日　「高知大学留学生を支援する会」主催の交流会に参加。持ち寄り昼食とゲームを楽しみました。
一〇月二九日　支部会　会員の池田起巳子様から、スイスで開催されたOM